

# 統計茨城

## 目次

田 植	1
ケトレーは待っていた……後藤正夫	2~3
にわたりの統計	4
冬期農業基本調査結果	5~7
テレビ・ラジオ受信契約者数	8~10
あなたはあと何年生きられるか	11~16
毎月勤労統計調査速報(1・2月分)	17~22
統計資料案内	23~24
経済スポット	25~26
設備投資の動向	26
グラフにみる	27
鉄道輸送	28
市町村の横顔(日立市)	29
作家のとらえた人間……塚本勝義	30

茨城県総務部統計課  
茨城県統計協会



## 田 植

水戸駅前から大洗行電車で30分ほどで、ここ東茨城郡常澄村平戸部落である。菜の花は今が満開、ひばりのさえずりもまだとちりがちで、あいにくと雲がたれこめかえるのコーラスもにぎわしく、いまにもなきだしそうな空模様である。

ここではいま陸苗代で育つた、小さくて人手にかかつてはちぎれそうな感じの苗が、秋の実りを胸に、赤いたすきにすげがさつけた早乙女たちによつて、手さばきもあざやかに植えられている。

この乙女たちの賃金も最近の値上ムードが影響してか1日2食付で700円が相場、それでもなかなか集められないとのこと。

さて本県のいね類の統計を1960年世界農林業センサスの結果からみると、収穫農家数は201,881戸、収穫面積115,392ha、収穫量424,157t、1ha当り収穫量369kg約6俵となつている。

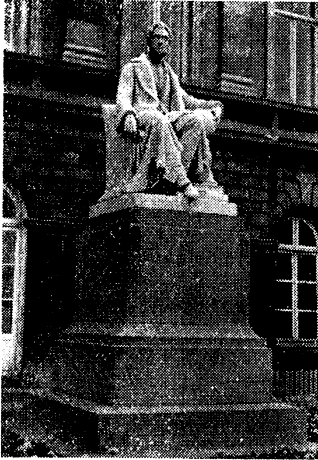
一方、昭和35年県民所得推計結果による、農業生産額は83,751百万円で、そのうち米は37.3%の31,277百万円を占め、2位の麦類11,927百万円を大きく引離して王座を占めている。

# ケトラーは待っていた

—ガントを訪れて—

行政管理庁統計基準局長

後藤 正 夫



## 1 特急列車

1961年8月31日午前7時、私を乗せたアムステルダム行の特急イル・ド・フランスは、パリの北停車場を発車した。フランス国鉄が欧州唯一と誇るこのデーゼル列車は、日本の「つばめ」や「こだま」に色も形もよく

似ている。しかし車内の色彩は暗く、シートは2人ずつ向い合つてすわる旧式な固定椅子である。一昨年日本にきた国際統計協会会長のボルドリーニ教授が「つばめ」の展望車に乗ったとき、「ヨーロッパでもこんなつばな列車に乗ったことがない」とほめていたのが、あながちお世辞でもなかつたように思われた。けれどもさすがにスピードははやく、そのわりに動揺が少なかつた。

私の当面の目的地はブリュッセルであつた。ベルギーの首都ブリュッセルにあるケトラーの銅像を見るためにわざわざこの列車に乗つたといつてもいいかも知れない、そしてこの旅行は、数年来の私の夢でもあつたのだ。

私がケトラーの遺跡を訪れたいと思うようになったのは、日本のケトラーとよばれている一ツ橋大学名誉教授の藤本幸太郎先生が、50年前のドイツに留学のころ、ブリュッセルに旅行されてケトラーの銅像を見られたときの感激について、先生の話がうかがつたとき以来のことである。私が15年前に統計家としての第一歩を踏み出したときから、心のよりどころとなつたケトラーについての先生のそのときの話に、私もことのほか大きな感激を覚えたからである。イル・ド・フランスは起伏の多い平野と、リールの工業地帯の単調な風物の中をノンストップで走ること3時間で、ベルギーの首都ブリュッセルの南停車場に到着した。

## 2 統計天下

アベニュー・ド・アストロノミー（天文通り）を北に少し下ると、プラス・ケトラーの広場がある。ここに面した農務省の玄関前の緑地帯には、真紅のゼラニウムが

今を盛りと咲いていた。そのゼラニウムに囲まれて、椅子にもたれたケトラーの巨大な銅像がそびえ立っている。それは、統計という新しい活眼を大きく見開いて、世界をへいげいする巨人の姿とでもいうか、それを仰ぎみる私ははかり知れない威圧を感じた。そのとき私は、大内賞の純銀のメダルに刻まれた「統計天下」という大内先生発明の言葉が、はじめて実感を伴つて迫つてくるように思つたのである。

いくたびか夢にまで見たランベルト・アドルフ・ケトラーの銅像の前に立つて、私はしばらく胸の高鳴りを鎮められなかつた。

襦袢の広いガウンのような服を着て、肘かけ椅子にもたれたケトラーは、左手で地球儀のような大きな球をおさえている。その足もとには3冊の部厚い書籍が積んである。そして銅像の下の石の台には、アドルフ・ケトラー、1796—1874と刻まれていた。この銅像を見る人々はそれがたえななに者であるかは知らないでも、偉大な学者であることだけはすぐわかるであろう。

ケトラーは数学者であり、天文学者であり、そして統計学者であつた。統計学者としてのケトラーの業績を象徴しているのが、1835年に彼が著わした「人間について」である。

ケトラーはこの著書の中で、人間の典型をあらゆる平均人という考えを提唱し、人間と社会との関係を研究する手がかりを与えている。特に医学において、病人を平均人の状態と比較することによつて、客観的に診断を下せることを指摘し、また平均人を、人間の特性を計量する基準にしようとした。そして自然科学の研究の領域で発達した確率の理論は、ケトラーによつてあらたに社会科学の部面で大きな発展を遂げることになつた。すなわち確率論はケトラーによつて社会現象の研究に科学的基礎を与えて、今日の統計の発達の基礎を築いたのである。

## 3 帽子屋

私を乗せたハイヤーがブリュッセルの西方約60キロのガント市に着くのに、ものの1時間とはかからなかつた。

ガントは人も知る第一次世界大戦の激戦地である。

美しい森に囲まれたバレ・ド・ボザール（美術館）を訪れると、私の来るのをブリュッセルからの電話連絡で

知っていた館長のファンデルストラート氏は、私を付属の博物館に案内してくれた。そこにはケトレーの書籍や著書「メデイアールの研究」(1852)、「統計の研究」(1844)等の初版、それに数葉のケトレーの写真等が、ガラスのケースの中に整然と並べられていた。私はそれらを手にとって自由に見ることができた。

ファンデルストラート氏は、ケトレーを慕ってわざわざガントに来る人は少いと、大変よろこんでくれた。そして、それほどケトレーを慕っているのなら、ケトレーの生れた家に行ってみたらどうか。もし行くなら誰かに案内をさせよう、とすすめてくれた。私はその好意をうけて博物館の守衛さんの案内で、再びハイヤーをとばすことになった。

ケトレーが生れた家は、有名なガントの鐘楼、セント・バボンの寺院、セント・ニコラス教会などにほど近い目抜き通りのあつた。今日ボルザリノ・ラーメンズ商店となつているのが、それで店先にはシャツボー、ホーデンの看板が出ている帽子屋であつた。そして店の左側の大理石の柱に、ケトレーの彫像がはめこまれていた。その像の下に、「1796年2月22日に、天文学と統計学で知られたアドルフ・ケトレーが、この家で生れた」という意味のフラマー語が浮き彫りにされていた。

普通にはアドルフ・ケトレーと呼んでいるが、ここにはアドルフ・ケトレーと書かれているのが私の注目をひいた。私がちようど、このケトレーの横顔を見つめらなが、深い感慨にふけついているとき、鐘楼から美しい鐘の音がひびき渡つてきた。

1796年2月22日に、アドルフ・ケトレーはこの家に生れ、この美しい鐘のしらべを子守唄とききながら育つた12世紀にフランダース侯が築いた無気味な黒い城をも、羊毛市場やモザイクのようなギルドの家をも、古い市役所の庁舎をも、そしてセント・バボン寺院やセント・ニコラス教会をも、一望のもとに見渡すことのできる鐘楼は、幼いころのケトレーのたのしい遊び場であつたであろう。そして科学者を志していたケトレーの夢を育てたのもまたここだつたかも知れない。

幼少のころから数学の天分に恵まれていたケトレーは1817年にガント大学に入り、1819年には早くも理学博士の学位をえて数学の研究にたずさわり、ついで物理学、気象学、天文学等の研究に没頭した。1833年に設置されたブリュッセルの天文台は、ケトレーの建議によつてつくられたものである。

1841年に、ケトレーの提案によつて、統計を重視すること、行政と統計とを緊密にすることを目的とする中央統計委員会が設置され、ケトレーは終世その会長の職にあつた。この委員会が統計の国際比較性ということをとあげた世界最初の機関であつた。そして1853年にはケトレーが主唱した国際統計会議がブリュッセルで開催

され、世界各国から集まつた統計学者や統計家が、各巨相互の間の比較のできる統計を作るために協力することを約束したのである。

それからすでに1世紀以上たつているが、国際統計会議は年とともにいよいよ盛大に行なわれるようになってきた。1昨年の夏に東京で行われた会議も、また、このたび私が出席したパリの会議も、ケトレーによつて始められたこの会議にほかならないのである。そして今や統計は世界共通の言葉であり、この言葉を使うことによつて国と国、人と人が、互いに理解と信頼とを深めるために、なくてはならないものとなつている。

私はケトレーのことを考えつづけた。私がきいている鐘の音と同じ音をケトレーもきいていたのだと思うと、私はいつまでもいつまでも、ここを離れたくなかつた。ケトレーが私を待つていた、というような気持が、私を強い力でここに引きとどめているようだつた。

#### 4 小便小僧

やつとケトレーに別れをつけた私は、フランダース侯の居城だつた冷たい黒い城を見物した。城内のかつての大食堂に陳列された拷問の道具や、深くそしてうす暗い地下牢などからは、戦国時代の血なまぐさい残虐のあとがしのばれた。あまつさえずす黒い日本橋の下を流れているような水をたたえた堀に映る城の影は、一そうの無気味さをあたりにただよわせているようで、私はすつかり憂鬱になつてしまつた。

しかしそのあと、セント・バボンの寺院で、北欧ルネッサンスの先駆としてフランドル絵画を創設したヴァン・アイク兄弟のえがいたすばらしい神羊の絵を見たとき私は再び明るい気持に立ち返ることができた。

ファンデルストラート氏の厚意を感謝しながらブリュッセルに戻つたときは、もう日はとつぷりと暮れていた。市庁舎前テート・ドールの酒場で渋い地酒のギューツの杯を傾けると、罍妒衰の炎に照らされた私の頬はいよいよほてつた。

外に出るとまた8月の末というのに、ブリュッセルの夜風はつめたかつた。ひねもすよすがら小便をほとぼしらせている可愛い小便小僧の噴水は、いかにもいじらしくかつたが、その前で顔を伏せながら、上目づかいにじつと小便小僧を見つめていた観光客の2人の少女の姿はもつといじらしく思われた。



# にわとりの統計

— 農林水産統計速報から —

## 1 秋ひなの統計

この統計は、にわとり「ふ化業者」について、あらかじめリストを行ない、このリストされた調査客体すべてについて、農林省統計調査事務所出張所職員が、面接の方法により調査を行なった。

「ふ化業者」とはふ卵器を用い、販売を目的として、にわとりのひなの生産を行なうものとした。したがって自家用に小規模生産を行なうもの、教育用または学校研究用に生産する試験研究機関などは調査対象から除外されているが、学校試験研究機関の名目であっても、大規模生産を行なうものは、販売が予想されるのであれば調査対象に含めてある。

### 月別発生羽数

(茨城県)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
	408	930	3,106	2,973	1,904	1,096	10,417
性別	鑑別したものの						
めす	140	402	1,464	1,344	763	338	4,451
おす	138	409	1,478	1,356	770	342	4,493
無鑑別	130	119	164	273	371	416	1,473
品種別発生羽数							
	白色 レグホーン	ニユー ハンブシャー	ロツク ホーン	ロード ホーン	その他		計
	5,007	226	3,401	917	—		10,417
入荷、出荷及び生産羽数							
月別	生産	出荷		移入	え付羽数		
		県内	県外				
計	4,451	3,153	1,072	4,067	7,220		
7	140	60	62	463	523		
8	402	261	108	554	815		
9	1,464	1,112	303	843	1,955		
10	1,344	1,000	280	812	1,812		
11	763	536	205	738	1,274		
12	338	184	114	657	841		
年計	18,452	14,391	3,483	16,050	30,441		

## 2 成鶏めす羽数と産卵量の統計

農林省の各都道府県統計調査事務所長の報告にもとずき、昭和36年1月から12月までの成鶏めす（ふ化後6カ月以上経過したにわとり）羽数と産卵量に関する統計をとりまとめたものであります。

月別	茨城県			全国		
	羽数	産卵率	産卵量	羽数	産卵率	産卵量
総数	千羽 27,773	% —	千個 499,513	千羽 622,497	% —	千個 12,863,049
1	2,109	54.5	35,632	57,035	50.8	883,465
2	2,075	64.6	37,533	55,922	56.8	889,941
3	2,063	65.3	41,761	55,580	64.3	1,108,091
4	2,191	68.7	45,157	55,648	69.2	1,155,344
5	2,157	68.3	45,670	55,586	67.9	1,170,129
6	2,122	63.7	40,551	55,568	64.1	1,067,851
7	2,275	61.8	43,584	56,511	61.1	1,070,759
8	2,301	58.6	41,800	58,360	57.1	1,032,517
9	2,457	54.6	40,246	64,527	51.8	1,002,549
10	2,646	52.6	43,146	71,299	50.5	1,117,022
11	2,724	51.2	41,841	76,810	49.5	1,140,392
12	2,673	51.4	42,592	75,950	52.0	1,224,989

# 冬期農業基本調査結果

昭和37年2月1日現在で実施した冬期農業基本調査の結果が判明しましたので、その概要を発表します。詳細については県統計課にある資料を閲覧するか、または後日刊行する予定の「農業基本調査結果報告書」を御利用下さい。

## 1 農業事業体数(単位戸)

農 家 208,448                      その他の事業体 223

## 2 経営耕地面積広狭別農業事業体数

総 数	5a~10a	10a~30a	30~50a	50a~70a	70a~1ha	1ha~1.2ha	1.2ha~1.5ha	1.5ha~2ha	2ha~3ha	3ha以上
208,671	3,492	24,748	25,322	23,844	35,375	23,297	29,670	29,814	12,295	814

## 3 農 家 人 口

## 4 農 業 雇 用 人 数

総 数	男	女	総 数	男	女
1,182,904	573,157	609,747	1,851,648	768,041	1,083,607

## 5 経営耕地面積

(単位ヘクタール)

市 郡 別	農 家 数	田(畦畔を 含む)	畑(樹園地そ の他の畑 を含む)	総 耕 地 面 積	果 実 園					計
					なし	くり	ぶどう	もも	その他	
総 数	209,671	91,412.25	112,946.22	204,358.54	688.18	1,952.06	224.93	122.65	727.35	3,615.42
市 計	55,920	23,914.52	25,795.26	49,709.79	240.44	356.23	59.83	30.21	136.50	823.24
水戸市	6,975	1,807.73	4,159.48	5,967.21	7.91	26.78	8.16	6.16	46.37	95.41
日立市	4,358	924.79	1,297.02	2,221.81	2.67	.26	.82	3.81	3.01	10.58
土浦市	3,772	1,768.03	1,956.51	3,724.55	39.56	122.98	22.33	4.12	3.46	192.47
古河市	924	253.41	491.03	744.45	.20	1.67	.25	.17	2.43	4.71
石岡市	2,703	1,201.04	1,761.17	2,962.21	24.92	173.29	6.79	3.22	34.66	242.91
下館市	4,426	3,420.05	1,833.91	5,253.95	57.27	2.36	7.50	.84	2.17	70.15
結城市	3,429	1,342.97	2,753.86	4,096.85	9.81	1.60	5.24	1.38	1.12	19.14
竜崎市	3,479	2,408.06	1,191.65	3,599.73	—	4.88	.62	.04	3.75	9.29
河原町市	2,333	294.51	882.34	1,176.86	.71	—	.60	—	—	1.31
下妻市	3,297	1,608.47	1,868.22	3,476.69	68.36	1.77	1.21	.64	12.74	84.73
水海道市	4,313	2,169.06	2,181.15	4,350.22	4.20	1.15	1.90	2.26	2.78	12.31
常陸太田市	4,554	1,989.55	1,148.39	3,137.93	20.29	.70	1.26	2.78	2.06	27.10
勝田市	2,998	821.76	2,036.87	2,858.62	1.08	—	.64	1.40	.01	3.13
高萩市	1,667	799.99	386.06	1,186.05	.18	.23	1.20	1.50	.88	4.00
北茨城市	3,398	1,553.50	631.40	2,184.90	.69	1.16	.27	.64	1.91	4.68
笠間市	3,294	1,551.54	1,216.14	2,767.68	2.54	17.39	1.01	1.23	19.08	41.27
郡 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東茨城郡	17,519	6,023.65	11,242.49	17,266.14	22.42	281.78	7.79	6.21	70.50	388.72
西茨城郡	7,462	3,162.33	4,006.77	7,169.10	16.83	187.12	10.05	9.00	17.50	240.51
那珂郡	14,810	4,102.75	7,642.70	11,745.45	4.45	8.47	12.00	14.84	29.72	69.50
久慈郡	9,423	3,130.28	3,329.92	6,460.20	2.82	4.27	.44	2.87	32.44	42.85
多賀郡	895	425.99	269.99	695.99	.61	.68	.11	1.93	1.35	4.70
鹿嶋郡	14,492	5,437.64	11,193.86	16,631.50	17.93	8.76	15.78	13.58	18.30	74.35
行方郡	9,312	5,401.66	4,560.98	9,962.65	6.60	6.20	3.26	.73	47.22	64.04
稲波郡	15,485	11,244.15	6,907.03	18,151.19	19.80	62.10	25.48	2.34	38.25	147.99
新築郡	12,919	6,010.59	8,003.81	14,014.40	188.92	944.74	42.76	17.31	237.66	1,431.41
筑波郡	12,849	6,496.94	7,505.59	14,002.54	18.51	58.14	21.12	6.98	33.46	138.23
真壁郡	9,774	4,726.01	5,485.58	10,211.60	107.81	10.17	11.39	3.00	15.22	147.59
結城郡	7,982	2,827.39	4,193.97	7,021.36	26.75	4.35	2.02	2.59	6.93	42.65
北相馬郡	15,089	4,554.69	10,725.92	15,280.62	10.33	18.03	11.42	9.28	37.99	87.08
北馬郡	5,740	3,953.66	2,082.35	6,036.01	3.96	1.02	1.48	1.78	4.31	12.56

6 冬作物の作付面積

(単位ヘクタール)

作物名	作付農家数	戸	総数	農家			その他の農業事業者		
				計	田	畑	計	田	畑
大麦	160,129	35,043.58	35,010.53	1,748.19	33,262.28	33.08	1.99	31.09	
小麦	179,325	40,416.14	40,376.20	1,911.45	38,464.52	39.93	1.07	38.86	
ビール麦	43,379	8,505.69	8,504.38	480.20	8,024.20	1.33	.40	.93	
はだか麦	13,046	1,477.86	1,477.47	80.20	1,397.31	.40	.20	.20	
そらまめ	12,334	367.31	367.14	9.65	357.50	.18	—	.18	
かんらん	14,424	362.97	362.06	32.33	329.70	.91	.07	.84	
らつきよう	9,006	256.10	255.96	4.33	251.63	.14	—	.14	
なたね	69,419	5,235.05	5,231.28	742.18	4,488.71	4.05	.38	3.67	
玉ね	16,833	215.78	215.26	4.94	210.33	.53	—	.53	
その他冬の作物	106,285	6,086.67	5,985.07	279.39	5,705.62	101.66	5.27	96.40	
苗木類	2,404	385.75	369.72	—	369.72	16.03	—	16.03	

7 家畜家さん飼養頭数及び飼養農家数

乳用牛				肉用牛				役牛							
飼養農家数	飼養頭数	めす	おす	飼養農家数	飼養頭数	めす	おす	飼養農家数	飼養頭数	種豚	肉豚	飼養農家数	飼養頭数	ひな	成鶏
		2才未満	2才以上			2才未満	2才以上								
8,887	15,741	4,268	11,062	192	219	66,207	71,458	10,912	39,193	7,908	13,445				
馬				豚				にわとり							
飼養農家数	飼養頭数	めす	おす	飼養農家数	飼養頭数	種豚	肉豚	飼養農家数	飼養頭数	ひな	成鶏				
		2才未満	2才以上												
11,810	12,226	359	3,111	572	8,184	66,326	203,127	37,628	165,499	140,581	2,240,532	461,529	1,779,003		

8 仔畜の生産頭数

乳用牛				肉用牛				豚	
めす	おす	めす	おす	仔豚	肉豚	飼養農家数	飼養頭数		
3,100		3,219		12,331				268,870	

9 家畜家さんの販売頭数

乳用牛				肉用牛				豚		プロレラー
めす	おす	めす	おす	仔豚	肉豚	飼養農家数	飼養頭数	ひな	成鶏	
10月未満	10月以上	10月未満	10月以上							
1,334	856	2,524	224	13,410	180,516	209,631		497,294		

10 農用施設

温室		定置型ハウス		簡易ハウス		地上型	地下型サイロ
坪	棟	坪	棟	坪	棟	サイロ	(半地下を含む)
6,271	206	13,487	510	81,406	1,541	5,855	22,908

11 農用機械台数及び所有者数

石油発動機						乗用トラクター					
個人所有		共同所有		計		個人所有		共同所有		計	
所有者数	台数	所有者数	台数	所有者数	台数	所有者数	台数	所有者数	台数	所有者数	台数
65,771	66,147	4,963	4,987	70,734	71,134	263	269	18	19	281	288

ハンドトラクター						動力脱穀機					
個人所用		共同所有		計		個人所有		共同所有		計	
所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数
32,187	32,305	762	766	32,949	33,071	94,251	94,411	7,885	7,914	102,136	102,325
動力糶すり機						ミスト機					
個人所有		共同所有		計		個人所有		共同所有		計	
所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数
78,745	28,764	8,269	8,175	36,914	36,939	1,516	1,533	2,489	255	4,005	4,084
動力噴霧機						人力噴霧機					
個人所有		共同所有		計		個人所有		共同所有		計	
所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数
2,977	2,992	1,790	1,807	4,767	4,799	52,527	52,960	6,366	6,562	58,893	59,522
畜力カルチベター						畜力砕土機					
個人所有		共同所有		計		個人所有		共同所有		計	
所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数
20,139	20,166	1,420	1,422	21,559	21,588	28,958	29,159	407	408	29,305	29,567
畑用畜力すき						水田用畜力すき					
個人所有		共同所有		計		個人所有		共同所有		計	
所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数
33,435	33,684	219	220	33,654	33,904	47,844	48,921	238	239	48,082	49,160
小型トラック						自動三輪車					
個人所有		共同所有		計		個人所有		共同所有		計	
所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数
1,348	1,370	34	35	1,382	1,405	4,574	4,604	50	50	4,624	4,654
リヤカー						農用揚水機					
個人所有		共同所有		計		個人所有		共同所有		計	
所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数	所有者	台数
113,833	114,669	269	272	114,102	114,941	20,635	21,027	1,730	1,756	22,365	22,783



# テレビ・ラジオ受信契約者数

(昭和37年4月1日現在)

市町村別	世帯数	甲 受 信 者 数				甲・乙合算受信者数			
		総 数	有 料	無 料	普及率%	総 数	有 料	無 料	普及率%
茨 城 県	409,421	165,815	165,128	687	40.5	345,784	323,760	22,024	84.5
市 部 計	189,452	90,901	90,646	255	48.0	158,515	150,595	7,920	83.7
郡 部 計	219,969	74,914	74,482	432	34.1	187,269	173,165	14,104	85.1
水 戸 市	32,710	17,957	17,905	52	54.9	27,258	26,031	1,227	83.3
日 立 市	36,644	18,471	18,451	20	50.4	30,210	29,265	945	82.4
土 浦 市	16,135	8,611	8,592	19	53.4	13,465	12,926	539	83.5
古 河 市	9,481	6,724	6,708	16	70.9	8,736	8,445	291	92.1
石 岡 市	7,309	3,713	3,702	11	50.8	6,020	5,668	352	82.4
下 館 市	10,139	5,351	5,336	15	52.8	9,398	8,909	489	92.7
結 城 市	7,188	3,590	3,571	19	49.9	6,936	6,166	770	96.5
竜ヶ崎市	6,915	4,038	4,027	11	58.4	6,317	5,942	375	91.4
那珂湊市	7,222	2,905	2,895	10	40.2	5,512	5,248	264	76.3
下 妻 市	5,800	1,734	1,732	2	29.9	4,937	4,567	370	85.1
水海道市	7,429	2,687	2,680	7	36.2	6,410	6,039	371	86.3
常陸市	7,840	3,193	3,175	18	40.7	6,763	6,343	420	86.3
太田市	8,393	5,312	5,302	10	63.3	7,884	7,407	477	93.9
高 萩 市	7,070	1,401	1,382	19	19.8	4,383	4,111	272	62.0
北茨城市	12,680	2,882	2,867	15	22.7	8,685	8,219	466	68.5
笠 間 市	6,497	2,332	2,321	11	35.9	5,601	5,309	292	86.3
東茨城郡	26,111	8,130	8,071	59	31.1	21,253	19,920	1,333	81.4
小 川 町	3,051	940	931	9	30.8	2,422	2,282	140	79.4
常 北 町	2,380	659	654	5	27.7	2,021	1,677	344	84.9
大 洗 町	4,785	1,902	1,893	9	39.7	3,821	3,628	193	79.9
茨 城 町	5,642	1,669	1,653	16	29.6	4,555	4,294	261	80.7
美野里町	2,871	853	849	4	29.7	2,185	2,078	107	76.1
内 原 村	2,387	996	992	4	41.7	2,041	1,966	75	85.5
桂 村	1,804	283	281	2	15.7	1,490	1,424	66	82.6
常 澄 村	1,751	712	708	4	40.7	1,501	1,427	74	85.7
御前山村	1,440	116	110	6	8.1	1,217	1,144	73	84.5
西茨城郡	11,407	4,715	4,689	26	41.3	9,858	9,399	459	86.4
岩 瀬 町	4,380	1,645	1,634	11	37.6	3,734	3,582	152	85.3
岩 間 町	2,672	1,115	1,111	4	41.7	2,246	2,139	107	84.1
友 部 町	3,622	1,828	1,823	5	50.5	3,252	3,108	144	89.8
七 会 村	733	127	121	6	17.3	626	570	56	85.4
那 珂 郡	20,616	6,531	6,492	39	31.7	17,934	16,073	1,861	87.0
大 宮 町	4,924	1,357	1,344	13	27.6	4,200	4,009	191	85.3
瓜 連 町	1,418	459	457	2	32.4	1,255	1,048	207	88.5
山 方 町	2,588	348	343	5	13.4	2,158	1,664	494	83.4
那 珂 町	6,018	2,496	2,488	8	41.5	5,296	4,600	696	86.3
東 海 村	2,559	1,311	1,306	5	51.2	2,439	2,361	78	95.3
美 和 村	1,551	341	338	3	22.0	1,286	1,146	140	82.9
緒 川 村	1,558	219	216	3	14.1	1,300	1,245	55	83.4

資料 NHK水戸放送局

注 甲受信者とは、テレビのみまたわテレビとラジオを受信契約している者、乙受信者とはラジオのみ  
世帯数は昭和35年国勢調査概数

市町村別	世帯数	甲 受 信 者 数				甲・乙合算受信者数			
		総 数	有 料	無 料	普及率%	総 数	有 料	無 料	普及率%
久慈郡	14,234	1,907	1,877	30	13.4	11,357	10,247	1,110	79.8
大子町	7,774	944	933	11	12.1	5,996	5,253	743	77.1
金砂郷村	2,762	639	626	13	23.1	2,376	2,252	124	86.0
水府村	2,216	254	251	3	11.5	1,787	1,644	143	80.6
里美村	1,482	70	67	3	4.7	1,198	1,098	100	80.8
多賀郡	2,333	87	85	2	3.7	1,354	1,287	67	58.0
十王町	2,333	87	85	2	3.7	1,354	1,287	67	58.0
鹿島郡	21,705	6,019	5,967	52	27.7	16,488	15,519	969	76.0
銚田町	5,491	1,882	1,869	13	34.3	4,470	4,195	275	81.4
鹿島町	2,966	1,050	1,044	6	35.4	2,268	2,107	161	76.5
波崎町	4,555	1,228	1,219	9	27.0	3,100	2,976	124	68.1
旭 村	2,029	305	301	4	15.0	1,542	1,451	91	69.8
神栖村	2,971	778	769	9	26.2	2,323	2,185	138	78.2
大洋村	1,846	325	318	7	17.6	1,261	1,170	91	48.3
大野村	1,847	451	447	4	24.4	1,524	1,435	89	82.5
行方郡	13,395	4,872	4,853	19	36.4	11,314	10,646	668	84.5
麻生町	3,708	1,480	1,476	4	39.9	3,156	2,934	222	85.1
潮来町	3,350	1,312	1,306	6	39.2	2,956	2,807	149	88.2
玉造町	2,839	891	884	7	31.4	2,376	2,228	148	83.7
牛堀町	1,275	476	475	1	37.3	1,093	1,043	50	85.7
北浦村	2,223	713	712	1	32.1	1,733	1,634	99	78.0
稲敷郡	21,749	9,855	9,796	59	45.3	18,242	17,377	865	83.9
江戸崎町	2,614	1,004	992	12	38.4	2,277	2,112	165	87.1
阿見町	4,624	2,081	2,075	6	45.0	3,575	3,458	117	77.3
牛久町	3,212	1,667	1,659	8	51.9	2,811	2,659	152	87.5
莖崎村	1,104	428	425	3	38.8	864	821	43	78.3
東 村	2,536	1,371	1,358	13	54.1	2,210	2,103	107	87.1
新利根村	1,801	810	806	4	45.0	1,552	1,487	65	86.2
美浦村	1,746	605	601	4	34.7	1,474	1,406	68	84.4
桜川村	1,696	482	476	6	28.4	1,286	1,226	60	75.8
河内村	2,416	1,407	1,404	3	58.2	2,193	2,105	88	89.9

市町村別	世帯数	甲 受 信 者 数				甲・乙合算受信者数			
		総 数	有 料	無 料	普及率%	総 数	有 料	無 料	普及率%
<b>新 治 郡</b>	<b>15,726</b>	<b>5,338</b>	<b>5,314</b>	<b>24</b>	<b>33.9</b>	<b>14,324</b>	<b>12,015</b>	<b>2,299</b>	<b>91.0</b>
八 郷 町	5,672	1,643	1,635	8	29.0	5,223	4,462	761	92.1
千代田村	2,147	905	902	3	42.2	1,981	1,769	212	92.3
出 島 村	3,489	1,113	1,108	5	31.9	3,065	2,296	769	87.8
玉 里 村	969	283	279	4	29.2	770	724	46	79.5
桜 村	1,825	781	781	0	42.8	1,718	1,489	229	94.1
新 治 村	1,624	613	609	4	37.7	1,557	1,275	282	95.9
<b>筑 筑 郡</b>	<b>17,266</b>	<b>6,030</b>	<b>6,001</b>	<b>29</b>	<b>34.9</b>	<b>15,335</b>	<b>13,899</b>	<b>1,436</b>	<b>88.8</b>
筑 波 町	4,721	1,652	1,640	12	35.0	3,942	3,738	204	83.5
谷田部町	3,996	1,396	1,386	10	34.9	4,020	3,203	817	100.6
豊 里 町	2,163	493	490	3	22.8	1,753	1,611	142	81.0
大 穂 町	2,226	767	765	2	34.5	1,807	1,783	24	81.2
伊 奈 村	2,167	1,052	1,052	0	48.5	1,965	1,821	144	90.7
谷和原村	1,993	670	668	2	33.6	1,848	1,743	105	92.8
<b>真 壁 郡</b>	<b>14,153</b>	<b>4,266</b>	<b>4,246</b>	<b>20</b>	<b>30.1</b>	<b>12,479</b>	<b>11,637</b>	<b>842</b>	<b>88.2</b>
真 壁 町	4,279	1,321	1,318	3	30.9	3,541	3,390	151	82.8
明 野 町	3,096	634	628	6	20.5	2,684	2,429	255	86.9
関 城 町	2,699	1,009	1,004	5	37.4	2,524	2,410	114	93.5
大 和 村	1,451	363	360	3	25.2	1,246	1,188	58	85.9
協 和 村	2,628	939	936	3	35.7	2,484	2,220	264	94.5
<b>結 城 郡</b>	<b>9,395</b>	<b>2,759</b>	<b>2,743</b>	<b>16</b>	<b>29.4</b>	<b>7,992</b>	<b>7,318</b>	<b>674</b>	<b>85.1</b>
石 下 町	3,573	1,178	1,172	6	33.0	3,023	2,828	195	84.6
八千代村	4,213	1,064	1,057	7	25.3	3,557	3,259	298	84.4
千代川村	1,609	517	514	3	32.1	1,412	1,231	181	87.8
<b>猿 島 郡</b>	<b>20,685</b>	<b>7,935</b>	<b>7,891</b>	<b>44</b>	<b>38.4</b>	<b>19,286</b>	<b>18,284</b>	<b>1,002</b>	<b>93.2</b>
境 町	4,097	1,343	1,338	5	32.8	3,851	3,626	225	94.0
岩 井 町	5,903	2,291	2,281	10	38.8	5,583	5,349	234	94.6
猿 島 町	2,518	495	491	4	19.7	2,193	2,089	104	87.1
五 霞 村	1,514	882	876	6	58.3	1,470	1,328	142	97.1
総 和 村	3,394	1,698	1,680	13	49.9	3,232	3,074	158	95.2
三 和 村	3,259	1,231	1,225	6	37.8	2,957	2,818	139	90.7
<b>北相馬郡</b>	<b>11,194</b>	<b>6,470</b>	<b>6,457</b>	<b>13</b>	<b>57.8</b>	<b>10,063</b>	<b>9,544</b>	<b>519</b>	<b>89.9</b>
取 手 町	4,919	2,747	2,746	1	55.8	4,089	3,906	183	83.1
守 谷 町	2,189	1,125	1,117	8	51.4	2,051	1,947	104	93.7
藤 代 町	2,360	1,500	1,497	3	63.6	2,282	2,187	95	96.7
利 根 町	1,726	1,098	1,097	1	63.6	1,641	1,504	137	95.1

## ・ あなたはあと何年生きられるか？

オギャーと、うぶ声をあげて死ぬまでの間を寿命といわれております。寿命といえば昔は人生僅か50年などといわれ、この短い寿命をはかなんでおりましたが、今日のように世の中が安定し、私達の財布の具合もまあまあというところまでになり、栄養にも多少は気をつかった食事も出来、医学も日進月歩の発展をしており、そのため戦後の混乱期に比較すれば死亡率も著しい減少を示し、ことに乳児死亡率が目立つて減少しています。

そのためか今度厚生省人口問題研究所から発表された第14回簡速静止人口表（生命表）によりますと、オギャーと生れたばかりの赤ん坊の平均余命をみてみると、男子の場合には65.33年、女子の場合70.15年となります。

ということではいつの間にか人生70年にもなつてしまい随分と長生出来るようになったものです。

今回の平均余命を前回のそれと比較してみると、男子は0.39年、女子は0.50年の増加であり、特に女子の平均余命が70年に達したことは注目に値するのではないのでしょうか。女が長寿であることは、男子の方が活動が烈しい点もありましょうが、生物はすべてメスの方が丈夫に出来ているようで、これは種属保存のため自然の定めであるともいわれております。

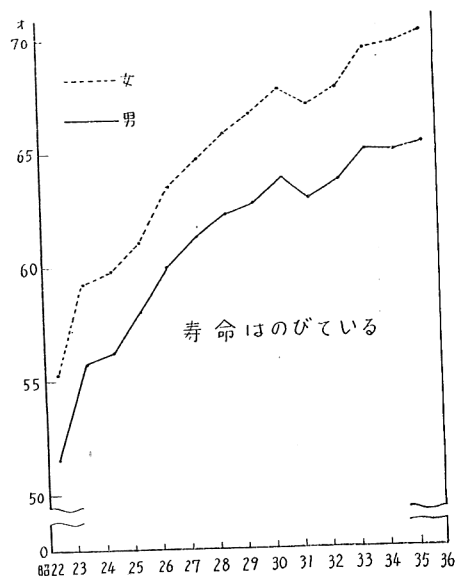
平均余命の年次比較

回	期 間	平 均 余 命	
		男	女
1	年月 22.4 ~ 年月 23.3	51.54	55.32
2	23.4 ~ 24.3	55.74	59.33
3	24.4 ~ 25.3	56.19	59.61
4	25.4 ~ 26.3	57.91	61.09
5	26.4 ~ 27.3	60.03	63.23
6	27.4 ~ 28.3	61.30	64.67
7	28.4 ~ 29.3	62.15	65.66
8	29.4 ~ 30.3	62.80	66.79
9	30.4 ~ 31.3	63.63	67.76
10	31.4 ~ 32.3	63.02	67.12
11	32.4 ~ 33.3	63.78	68.11
12	33.4 ~ 34.3	64.98	69.52
13	34.4 ~ 35.3	64.94	69.65
14	35.4 ~ 36.3	65.33	70.15

さて、今あなたが20才の前途有望な青年である。これからどのくらい生きられるかをこの生命表でみてみるには、この表は男と女との二つの表になっておりますからこの男の表で年令(x)のところで20をとり、これを右側へみていくと各歳における平均余命(ex)の49.03という数字がありますが、これがこれからあなたの生きられる年数というわけです。これはあくまでも統計的なものでありあくまでも平均余命であるということに注意して下さい。従つて必ずしも49年も生きられるか、あるいはそれ以上生きられるかは現実の問題となつてくるのであります。それから一般には男子の平均余命が65年の場合20才の青年のこれから生きられる年数は $65 - 20 = 45$ と考えられやすいのではないかとと思われるが、これは次に述べる生命表がどのようにしてつくられるかを考えればおわかりになるのではないのでしょうか。

そこで生命表はどのようなものであるかを簡単に申し上げますと、ある時期の年令別死亡率がわかれば10万人生れた場合0才で何人死亡し、1才始めに何人生残り、1才で何人死亡し、2才始めに何人残るといふうに死にたえるまでの各才の死亡と生残り数を計算して表にまとめたものです。

この生命表は将来人口の推計とか労働力人口の推計には是非とも必要なものなのであります。それはこれらの推計を行なううえに出生率は勿論死亡率がわからなくては推計そのものが不可能になつてくるからです。また生命保険、恩給などにおいても必要なものなのであります。



第 14 回 簡 速 靜 止 入 口 表 (拔 率)

年 令 $x$	男			女		
	生 存 率 $p_x$	死 亡 率 $q_x$	平 均 寿 命 $e_x$	生 存 率 $p_x$	死 亡 率 $q_x$	平 均 寿 命 $e_x$
0	0.96721	0.03279	65.33	0.97350	0.02650	70.15
1	0.99621	0.00379	66.54	0.99677	0.00323	71.05
2	0.99729	0.00271	65.79	0.99772	0.00228	70.28
3	0.99789	0.00211	64.97	0.99823	0.00177	69.44
4	0.99823	0.00177	64.11	0.99846	0.00154	68.56
5 ~ 9	0.99485	0.00515	63.22	0.99619	0.00381	67.67
10 ~ 14	0.99694	0.00306	58.54	0.99784	0.00216	62.92
15 ~ 19	0.99374	0.00626	53.71	0.99613	0.00387	58.05
20 ~ 24	0.99024	0.00976	49.03	0.99384	0.00616	53.27
25 ~ 29	0.98867	0.01133	44.49	0.99220	0.00780	48.58
30 ~ 34	0.98768	0.01232	39.97	0.99076	0.00924	43.94
35 ~ 39	0.98495	0.01505	35.43	0.98896	0.01104	39.33
40 ~ 44	0.97918	0.02082	30.93	0.98506	0.01494	34.74
45 ~ 49	0.96874	0.03126	26.54	0.97811	0.02189	30.23
50 ~ 54	0.94984	0.05016	22.31	0.96688	0.03312	25.84
55 ~ 59	0.91915	0.08085	18.34	0.95027	0.04973	21.64
60 ~ 64	0.87116	0.12884	14.72	0.92068	0.07932	17.63
65 ~ 69	0.79967	0.20033	11.51	0.86971	0.13029	13.92
70 ~ 74	0.69744	0.30256	8.74	0.78781	0.21219	10.60
75 ~ 79	0.55889	0.44111	6.42	0.66210	0.33790	7.75
80 ~ 84	0.38711	0.61289	4.55	0.48446	0.51554	5.40
85 ~ 89	0.20519	0.79481	3.09	0.26978	0.73022	3.56
90 ~ 94	0.06168	0.93852	1.98	0.08092	0.91908	2.18
95 ~ 99	0.00303	0.99697	1.66	0.00277	0.99723	1.18
100	0.00000	1.00000	—	0.00000	1.00000	0.50

(昭和35年4月1日)

【男】

年 令 x	各歳の生存率	各歳の死亡率	各歳における 平均余命	年 令 x	各歳の生存率
	$p_x$	$q_x$	$e_x$		$p_x$
0 月	0.98122	0.01878	65.33	31	0.99759
1	0.99662	0.00338	66.50	32	0.99755
2	0.99778	0.00222	66.64	33	0.99747
3	0.99592	0.00408	66.71	34	0.99738
6	0.99533	0.00467	66.73	35	0.99727
0 年	0.96721	0.00327	65.33	36	0.99715
1	0.99621	0.00379	66.54	37	0.99700
2	0.99729	0.00271	65.79	38	0.99682
3	0.99789	0.00211	64.97	39	0.99662
4	0.99823	0.00177	64.11	40	0.99639
5	0.99849	0.00151	63.22	41	0.99613
6	0.99877	0.00123	62.31	42	0.99583
7	0.99904	0.00096	61.39	43	0.99551
8	0.99922	0.00078	60.45	44	0.99514
9	0.99933	0.00067	59.50	45	0.99473
10	0.99940	0.00060	58.54	46	0.99427
11	0.99944	0.00056	57.57	47	0.99375
12	0.99944	0.00056	56.60	48	0.99314
13	0.99938	0.00062	55.63	49	0.99245
14	0.99927	0.00073	54.67	50	0.99168
15	0.99911	0.00089	53.71	51	0.99082
16	0.99892	0.00108	52.75	52	0.98986
17	0.99871	0.00129	51.81	53	0.98881
18	0.99856	0.00144	50.88	54	0.98764
19	0.99841	0.00159	49.95	55	0.98636
20	0.99826	0.00174	49.03	56	0.98494
21	0.99813	0.00187	48.11	57	0.98346
22	0.99801	0.00199	47.20	58	0.98178
23	0.99793	0.00207	46.29	59	0.97988
24	0.99786	0.00214	45.39	60	0.97780
25	0.99780	0.00220	44.49	61	0.97552
26	0.99776	0.00224	43.58	62	0.97303
27	0.99772	0.00228	42.68	63	0.97031
28	0.99769	0.00231	41.78	64	0.96734
29	0.99766	0.00234	40.87	65	0.96409
30	0.99763	0.00237	39.97	66	0.96054

注 補間推計による年令各歳別の結果である。

静 止 人 口 表 ( 抜 萃 )

~36年 3月31日)

各歳の死亡率	各歳における 平均余命	年 令	各歳の生存率	各歳の死亡率	各歳における 平均余命
$q_x$	$e_x$	$x$	$p_x$	$q_x$	$e_x$
0.00241	39.06	67	0.95665	0.04335	10.35
0.00245	38.15	68	0.95241	0.04759	9.79
0.00253	37.25	69	0.94776	0.05224	9.26
0.00262	36.34	70	0.94269	0.05731	8.74
0.00273	35.43	71	0.93714	0.06286	8.24
0.00285	34.53	72	0.93108	0.06892	7.76
0.00300	33.63	73	0.92445	0.07555	7.29
0.00318	32.73	74	0.91720	0.08280	6.85
0.00338	31.83	75	0.90927	0.09073	6.42
0.00361	30.93	76	0.90061	0.09939	6.01
0.00387	30.05	77	0.89114	0.10886	5.62
0.00417	29.16	78	0.88079	0.11921	5.25
0.00449	28.28	79	0.86947	0.13053	4.89
0.00486	27.41	80	0.85710	0.14290	4.55
0.00527	26.54	81	0.84358	0.15642	4.23
0.00573	25.67	82	0.82879	0.17121	3.92
0.00625	24.82	83	0.81263	0.18737	3.63
0.00686	23.97	84	0.79496	0.20504	3.35
0.00755	23.13	85	0.77565	0.22435	3.09
0.00832	22.31	86	0.75453	0.24547	2.84
0.00918	21.49	87	0.73145	0.26855	2.60
0.01014	20.68	88	0.70621	0.29379	2.38
0.01119	19.89	89	0.67862	0.32138	2.17
0.01236	19.11	90	0.64827	0.35173	1.98
0.01364	18.34	91	0.61550	0.38450	1.79
0.01506	17.59	92	0.57945	0.42055	1.62
0.01654	16.85	93	0.54005	0.45995	1.45
0.01822	16.13	94	0.49698	0.50302	1.30
0.02012	15.42	95	0.44989	0.55011	1.16
0.02220	14.72	96	0.39842	0.60158	1.00
0.02448	14.04	97	0.33781	0.66219	0.83
0.02697	13.38	98	0.26295	0.73705	0.67
0.02969	12.74	99	0.17961	0.82039	0.45
0.03266	12.12	100	0.08776	0.91224	—
0.03591	11.51	101	0.00000	1.00000	—
0.03946	10.92				

## 【女】

年 令	各歳の生存率	各歳の死亡率	各歳における平均余命	年 令	各歳の生存率
x	$p_x$	$q_x$	$e_x$	x	$p_x$
0 月	0.98533	0.01467	70.15	31	0.99820
1	0.99716	0.00284	71.11	32	0.99814
2	0.99807	0.00193	71.23	33	0.99809
3	0.99658	0.00342	71.28	34	0.99803
6	0.99613	0.00387	71.28	35	0.99797
0 年	0.97350	0.00650	70.15	36	0.99789
1	0.99677	0.00323	71.05	37	0.99781
2	0.99772	0.00228	70.28	38	0.99769
3	0.99823	0.00177	69.44	39	0.99755
4	0.99846	0.00154	68.56	40	0.99740
5	0.99872	0.00128	67.67	41	0.99722
6	0.99906	0.00094	66.76	42	0.99702
7	0.99937	0.00063	65.82	43	0.99679
8	0.99949	0.00051	64.86	44	0.99655
9	0.99955	0.00045	63.89	45	0.99627
10	0.99957	0.00043	62.92	46	0.99596
11	0.99959	0.00041	61.95	47	0.99562
12	0.99958	0.00042	60.97	48	0.99524
13	0.99956	0.00044	60.00	49	0.99482
14	0.99952	0.00048	59.02	50	0.99437
15	0.99944	0.00056	58.05	51	0.99387
16	0.99933	0.00067	57.08	52	0.99332
17	0.99921	0.00079	56.12	53	0.99275
18	0.99912	0.00088	55.17	54	0.99212
19	0.99903	0.00097	54.21	55	0.99144
20	0.99894	0.00106	53.27	56	0.99069
21	0.99884	0.00116	52.32	57	0.99005
22	0.99875	0.00125	51.38	58	0.98920
23	0.99868	0.00132	50.45	59	0.98806
24	0.99861	0.00139	49.51	60	0.98678
25	0.99855	0.00145	48.58	61	0.98537
26	0.99849	0.00151	47.65	62	0.98379
27	0.99844	0.00156	46.72	63	0.98203
28	0.99838	0.00162	45.79	64	0.98008
29	0.99832	0.00168	44.87	65	0.97790
30	0.99826	0.00174	43.94	66	0.97548



各歳の死亡率	各歳における 平均余命	年 令	各歳の生存率	各歳の死亡率	各歳における 平均余命
$q_x$	$e_x$	$x$	$p_x$	$q_x$	$e_x$
0.00180	43.02	67	0.97278	0.02722	12.54
0.00186	42.09	68	0.96978	0.03022	11.88
0.00191	41.17	69	0.96644	0.03356	11.23
0.00197	40.25	70	0.96272	0.03728	10.60
0.00203	39.33	71	0.95858	0.04142	10.00
0.00211	38.41	72	0.95397	0.04603	9.41
0.00219	37.49	73	0.94884	0.05116	8.83
0.00231	36.57	74	0.94312	0.05688	8.28
0.00245	35.65	75	0.93677	0.06323	7.75
0.00260	34.74	76	0.92969	0.07031	7.24
0.00278	33.83	77	0.92181	0.07819	6.75
0.00298	32.92	78	0.91304	0.08696	6.28
0.00321	29.83	79	0.90327	0.09673	5.84
0.00345	31.12	80	0.89241	0.10759	5.40
0.00373	30.23	81	0.88031	0.11969	5.00
0.00404	29.34	82	0.86684	0.13316	4.61
0.00438	28.45	83	0.85185	0.14815	4.24
0.00476	27.58	84	0.83516	0.16484	3.89
0.00518	26.71	85	0.81659	0.18341	3.56
0.00563	25.84	86	0.79591	0.20409	3.25
0.00613	24.99	87	0.77289	0.22711	2.95
0.00668	24.14	88	0.74726	0.25274	2.68
0.00725	23.30	89	0.71874	0.28126	2.42
0.00788	22.46	90	0.68699	0.31301	2.18
0.00856	21.64	91	0.65164	0.34836	1.95
0.00931	20.82	92	0.61230	0.38770	1.74
0.00995	20.01	93	0.56850	0.43150	1.54
0.01080	19.21	94	0.51975	0.48025	1.35
0.01194	18.41	95	0.46547	0.53453	1.18
0.01322	17.63	96	0.40506	0.59494	1.02
0.01463	16.86	97	0.33781	0.66219	0.87
0.01621	16.10	98	0.26295	0.73705	0.76
0.01797	15.36	99	0.17961	0.82039	0.63
0.01992	14.63	100	0.08776	0.91224	0.50
0.02210	13.92	101	0.00000	1.00000	—
0.02452	13.22				

# 茨城県 毎月勤労統計調査結果速報 (昭和37年1月分)

第1表 産業常用労働者の種類別及び性別1日平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額 (規模30人以上) (単位円)

産 業 名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われ た 給 与			臨時及び日 雇労働者の 1日平均 現金給与額
	総 額	男 子	女 子	総 額	男 子	女 子	総 額	男 子	女 子	
<b>全 常 用 勞 働 者</b>										
総 数	20,712	23,587	11,509	18,565	21,220	10,066	2,147	2,367	1,443	569
D 鉱 業	22,207	23,466	8,264	22,207	23,466	8,264	—	—	—	428
E 建 設 業	18,277	20,338	7,879	17,808	19,804	7,739	469	534	140	851
F 製 造 業	19,255	22,263	9,764	17,320	19,902	9,172	1,935	2,361	592	605
18 食 料 品	20,338	25,350	9,227	16,249	19,970	8,001	4,089	5,380	1,227	—
20 織 維 工 業	11,254	22,628	8,678	11,254	22,628	8,678	—	—	—	467
26 化 学 工 業	16,108	21,365	8,171	16,108	21,365	8,171	—	—	—	—
30 窯 業 土 石 製 品	20,721	22,085	13,907	20,721	22,085	13,907	—	—	—	649
32 非 鉄 金 属	42,456	46,120	18,571	20,500	22,191	9,477	21,956	23,929	9,094	—
33 金 属 製 品 業	14,863	18,615	9,129	13,573	16,747	8,724	1,290	1,868	405	524
34 機 械 製 造 業	14,481	16,574	8,485	14,481	16,574	8,485	—	—	—	—
55 電 気 機 器 製 造 業	17,501	19,800	9,265	17,443	19,784	9,058	58	16	207	—
19.38.39 そ の 他	18,118	24,679	15,032	18,118	24,679	15,032	—	—	—	—
G 卸 売 及 び 小 売 業	15,486	19,539	9,799	15,486	19,539	9,799	—	—	—	412
H 金 融 及 び 保 険 業	21,218	26,592	13,602	21,218	26,592	13,602	—	—	—	290
I 不 動 産 業	18,269	22,221	9,510	18,269	22,221	9,510	—	—	—	—
J 運 輸 通 信 業	31,340	33,568	24,423	23,526	26,258	15,048	7,814	7,310	9,375	361
K 電 気 ガ ス 水 道 業	28,762	29,287	15,134	28,762	29,287	15,134	—	—	—	—
L 医 療 保 健 業	22,127	32,661	15,556	22,037	32,483	15,521	90	178	35	372
<b>生 産 勞 働 者</b>										
D 鉱 業	21,992	22,891	7,640	21,992	22,891	7,640	—	—	—	—
E 建 設 業	17,198	19,315	6,543	16,624	18,652	6,414	574	663	129	—
F 製 造 業	16,018	18,309	9,344	14,790	16,814	8,892	1,228	1,495	452	—
18 食 料 品	17,766	22,809	14,677	3,095	4,266	6,983	3,095	4,266	7,694	—
20 織 維 工 業	9,549	18,710	8,211	9,549	18,710	8,211	—	—	—	—
26 化 学 工 業	13,331	18,184	7,410	13,331	18,184	7,410	—	—	—	—
30 窯 業 土 石 製 品	19,867	20,905	14,420	19,867	20,905	14,420	—	—	—	—
32 非 鉄 金 属	33,433	35,391	17,386	18,333	19,495	8,803	15,100	15,896	8,583	—
33 金 属 製 品 業	13,499	16,552	8,661	12,201	14,661	8,302	1,298	1,891	359	—
34 機 械 製 造 業	12,382	13,903	7,757	12,382	13,903	7,757	—	—	—	—
55 電 気 機 器 製 造 業	14,692	16,351	9,255	14,625	16,342	8,997	67	9	258	—
19.38.39 そ の 他	17,507	19,553	15,011	17,507	19,553	15,011	—	—	—	—
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者</b>										
D 鉱 業	23,346	27,085	9,199	23,346	27,085	9,199	—	—	—	—
E 建 設 業	21,547	23,438	11,953	21,397	23,292	11,780	150	146	173	—
F 製 造 業	27,663	31,848	11,142	23,891	27,387	10,091	3,772	4,461	1,051	—
18 食 料 品	29,137	34,064	14,921	21,865	25,309	11,928	7,272	8,755	2,993	—
20 織 維 工 業	20,587	27,557	11,908	20,587	27,557	11,908	—	—	—	—
26 化 学 工 業	23,304	27,505	11,513	23,304	27,505	11,513	—	—	—	—
30 窯 業 土 石 製 品	24,092	26,869	12,245	24,092	26,869	12,245	—	—	—	—
32 非 鉄 金 属	57,574	65,493	19,815	24,131	27,056	10,185	33,443	38,437	9,630	—
33 金 属 製 品 業	23,495	33,204	11,677	22,260	31,494	11,020	1,235	1,710	657	—
34 機 械 製 造 業	22,244	27,182	10,706	22,244	27,182	10,706	—	—	—	—
55 電 気 機 器 製 造 業	24,189	27,488	9,294	24,153	27,455	9,244	36	33	50	—
19.38.39 そ の 他	29,282	34,353	15,124	29,282	34,353	15,124	—	—	—	—

第2表 産業常用労働者の種類別及び性別一人平均月間実労働時間数及び出勤日数  
(規模30人以上) (単位時間、日)

産 業 名	実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出 勤 日 数		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
<b>全 常 用 勞 働 者</b>												
<b>總 数</b>	185.8	189.8	172.9	163.2	163.2	163.3	22.6	26.6	9.6	21.9	22.0	21.6
D 鉱 業	193.0	194.5	177.0	163.8	163.8	164.5	29.2	30.7	12.5	23.0	22.9	23.1
E 建 設 業	179.1	183.2	158.2	164.7	167.3	151.7	14.4	15.9	6.5	21.4	21.7	19.9
F 製 造 業	185.9	191.2	169.3	161.8	162.1	160.8	24.1	29.1	8.5	21.6	21.7	21.1
18 食 料 品	182.1	187.9	169.5	162.8	163.1	162.3	19.3	24.8	7.2	21.5	21.8	20.9
20 織 維 工 業	166.1	189.3	163.5	160.2	172.7	160.0	5.9	16.6	3.5	20.9	21.5	20.8
26 化 学 工 業	175.1	185.1	159.9	160.7	164.0	155.6	14.4	21.1	4.3	21.5	22.0	20.7
30 窯 業 土 石 製 品	187.6	191.0	170.7	168.1	169.0	163.6	19.5	22.0	7.1	21.9	22.0	21.5
32 非 鉄 金 属	215.8	223.9	172.6	180.0	182.6	163.1	35.8	41.3	9.5	24.4	24.6	22.4
33 金 属 製 品	183.4	186.8	178.3	169.4	169.6	169.2	14.0	17.2	9.1	21.5	21.6	21.3
34 機 械 製 造 業	186.3	189.9	176.1	167.0	167.5	165.6	19.3	22.4	10.5	21.8	21.8	21.6
35 電 氣 機 器 具 製 造 業	182.9	186.7	169.4	157.8	157.2	159.9	25.1	29.5	9.5	21.2	21.3	21.0
19.38.39 そ の 他	176.7	190.0	156.3	163.1	170.5	151.7	13.6	19.5	4.6	21.4	22.1	20.5
G 卸 売 及 び 小 売 業	198.5	194.0	204.8	184.5	177.3	194.7	14.0	16.7	10.1	23.6	22.8	24.7
H 金 融 及 び 保 險 業	170.4	171.2	169.3	159.6	158.2	161.5	10.8	13.0	7.8	22.8	22.8	22.8
I 不 動 産 業	182.4	192.5	160.1	157.9	159.8	153.7	24.5	32.7	6.4	21.1	21.3	20.5
J 運 輸 通 信 業	184.0	188.2	170.7	162.5	165.4	153.4	21.5	22.8	17.3	21.9	22.1	21.2
K 電 気 ガ ス 水 道 業	157.4	157.6	151.2	145.0	145.0	145.3	12.4	12.6	5.9	22.1	22.1	20.7
L 医 療 保 健 業	197.3	199.1	196.2	179.9	178.6	180.7	17.4	20.5	15.5	23.3	23.0	23.5
<b>生 産 勞 働 者</b>												
D 鉱 業	192.9	194.1	175.1	162.4	162.4	162.6	30.5	31.7	12.5	22.7	22.7	22.3
E 建 設 業	176.8	182.4	148.7	162.6	166.5	143.1	14.2	15.9	5.6	20.9	21.3	18.6
F 製 造 業	185.9	192.3	167.1	161.9	162.8	159.3	24.0	29.5	7.8	21.6	21.8	20.9
18 食 料 品	186.0	196.5	165.1	163.3	166.3	157.2	22.7	30.2	7.9	21.6	22.4	20.3
20 織 維 工 業	162.8	190.0	158.8	157.7	172.0	155.6	5.1	18.0	3.2	20.8	21.3	20.7
26 化 学 工 業	172.2	186.7	154.5	158.1	163.8	151.2	14.1	22.9	3.3	21.2	22.1	20.1
30 窯 業 土 石 製 品	188.2	192.0	168.5	167.8	169.1	161.1	20.4	22.9	7.4	21.8	21.9	21.1
32 非 鉄 金 属	228.5	235.5	171.5	186.0	188.9	162.6	42.5	46.6	8.9	25.5	25.9	22.3
33 金 属 製 品	180.8	183.6	176.2	167.7	167.8	167.4	13.1	15.8	8.8	21.3	21.3	21.1
34 機 械 製 造 業	186.1	190.4	173.1	167.2	168.0	164.9	18.9	22.4	8.2	21.8	21.9	21.6
35 電 氣 機 器 具 製 造 業	182.3	186.7	167.9	157.9	157.6	159.0	24.4	29.1	8.9	21.2	21.3	20.9
19.38.39 そ の 他	175.0	195.1	150.4	161.0	173.1	146.2	14.0	22.0	4.2	21.2	22.1	20.0
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者</b>												
D 鉱 業	193.2	196.8	179.6	171.3	172.4	167.2	21.9	24.4	12.4	24.4	24.5	24.3
E 建 設 業	185.9	185.7	187.1	171.0	169.7	177.7	14.9	16.0	9.4	22.9	22.8	23.3
F 製 造 業	186.0	188.5	176.3	161.4	160.3	165.8	24.6	28.2	10.5	21.7	21.6	21.9
18 食 料 品	181.1	179.3	186.3	170.9	167.1	181.7	10.2	12.2	4.6	22.3	21.9	23.5
20 織 維 工 業	184.9	188.3	180.6	174.3	173.5	175.3	10.6	14.8	5.3	21.8	21.7	21.9
26 化 学 工 業	182.7	182.3	183.8	167.3	164.6	175.0	15.4	17.7	8.8	22.3	21.9	23.2
30 窯 業 土 石 製 品	185.1	186.9	178.0	169.1	168.5	171.8	16.0	18.4	6.2	22.3	22.3	22.7
32 非 鉄 金 属	191.1	194.7	173.8	163.1	163.0	163.7	28.0	31.7	10.1	22.4	22.4	22.6
33 金 属 製 品	200.5	209.4	189.8	180.8	182.2	179.1	19.7	27.2	10.7	22.8	23.2	22.4
34 機 械 製 造 業	187.0	187.6	185.2	166.0	165.2	167.6	21.0	22.4	17.6	21.6	21.5	21.8
35 電 氣 機 器 具 製 造 業	184.5	186.9	174.0	157.6	156.6	162.5	26.9	30.3	11.5	21.4	21.3	21.5
19.38.39 そ の 他	181.1	180.8	182.2	168.4	165.8	175.8	12.7	15.0	6.4	22.1	21.9	22.9

第3表 産業常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の年月推計延人員（規模30人以上）（単位、人）

前月末労働者数			本月中の増加			本月中の減少			本月末労働者数			臨時及び日雇労働者の 年間推計延 人員
総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
139,973	106,443	33,530	2,777	2,173	604	4,053	2,718	1,335	138,697	105,898	32,799	88,274
10,942	10,029	913	252	234	18	226	197	29	10,968	10,066	902	7,952
6,996	5,834	1,162	254	219	35	411	341	70	6,839	5,712	1,127	29,823
92,020	69,769	22,251	1,776	1,376	400	2,430	1,662	768	91,366	69,483	21,883	6,184
3,548	2,420	1,128	118	96	22	225	120	105	3,441	2,396	1,045	—
1,427	275	1,152	18	1	17	23	—	23	1,422	276	1,146	719
1,885	1,128	757	23	21	2	33	15	18	1,875	1,134	741	—
3,943	3,279	664	65	65	—	69	56	13	3,939	3,288	651	4,553
7,255	6,283	972	79	59	20	395	318	77	6,939	6,024	915	—
1,625	984	641	29	13	16	61	36	25	1,593	961	632	225
5,244	3,879	1,365	103	68	35	155	89	66	5,192	3,858	1,334	—
52,260	40,818	11,442	899	704	195	1,141	823	318	52,018	40,699	11,319	—
1,844	1,108	736	3	2	1	25	9	16	1,822	1,101	721	—
8,233	4,761	3,472	206	92	114	265	35	230	8,174	4,818	3,356	33,473
4,264	2,497	1,767	73	46	27	61	33	28	4,276	2,510	1,766	107
334	230	104	4	1	3	3	—	3	335	231	104	—
15,377	11,585	3,792	206	199	7	649	446	203	14,934	11,338	3,596	10,735
1,807	1,738	69	6	6	—	8	4	4	1,805	1,740	65	—
3,000	1,149	1,851	46	26	20	62	25	37	2,984	1,150	1,834	1,082
9,198	8,652	546	238	225	13	202	185	17	9,234	8,692	542	—
5,286	4,402	884	225	199	26	394	324	70	5,117	4,277	840	—
66,492	49,445	17,047	1,343	1,026	317	1,929	1,346	583	65,906	49,125	16,781	—
2,674	1,767	907	70	56	14	166	64	102	2,578	1,759	819	—
1,209	153	1,056	14	1	13	23	—	23	1,200	154	1,046	—
1,359	742	617	21	19	2	26	13	13	1,354	748	606	—
3,131	2,624	507	56	56	—	45	36	9	3,142	2,644	498	—
4,561	4,059	502	8	2	6	242	199	43	4,327	3,862	465	—
1,408	868	540	19	3	16	56	35	21	1,371	836	535	—
4,136	3,105	1,031	71	53	18	129	82	47	4,078	3,076	1,002	—
36,851	28,237	8,614	705	537	168	969	742	227	36,587	28,032	8,555	—
1,323	726	597	2	1	1	21	9	12	1,304	718	586	—
1,744	1,377	367	14	9	5	24	12	12	1,734	1,374	360	—
1,710	1,432	278	29	20	9	17	17	—	1,722	1,435	287	—
25,528	20,324	5,204	433	350	83	501	316	185	25,460	20,358	5,102	—
874	653	221	48	40	8	59	56	3	863	637	226	—
218	122	96	4	—	4	—	—	—	222	122	100	—
526	386	140	2	2	—	7	2	5	521	386	135	—
812	655	157	9	9	—	24	20	4	797	644	153	—
2,694	2,224	470	71	57	14	153	119	34	2,612	2,162	450	—
217	116	101	10	10	—	5	1	4	222	125	97	—
1,108	774	334	32	15	17	26	7	19	1,114	782	332	—
15,409	12,581	2,828	194	167	27	172	81	91	15,431	12,667	2,764	—
521	382	139	1	1	—	4	—	4	518	383	135	—

# 毎月勤労統計調査結果速報

(昭和37年2月分)

茨 城 県

第1表 産業常用労働者の種類及び性別1人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額 (規模30人以上) (単位円)

産 業 名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われ た 給 与			臨時及び日 雇労働者の 1日平均現 金給与額
	総 数	男 子	女 子	総 額	男 子	女 子	総 額	男 子	女 子	
<b>全 常 用 勞 働 者</b>										
総 数	19,008	21,668	10,561	18,978	21,638	10,528	30	30	33	710
D 鉱 業	21,196	22,390	8,220	21,196	22,390	8,220	—	—	—	419
E 建 設 業	17,858	19,619	8,836	17,736	19,578	8,301	122	41	535	816
F 製 造 業	18,112	20,729	9,944	18,089	20,703	9,931	23	26	13	497
18 食 料 品	16,676	19,786	9,541	16,471	19,518	9,479	205	268	62	—
20 織 維 工 業	11,594	22,388	8,954	11,594	22,388	8,954	—	—	—	468
26 化 学 工 業	16,551	21,545	8,700	16,551	21,545	8,700	—	—	—	395
30 窯 業 土 石 製 品	21,475	23,645	10,336	21,399	23,569	10,336	76	76	—	878
32 非 鉄 金 属	19,686	21,647	10,276	19,686	21,647	10,276	—	—	—	530
33 金 属 製 品 業	14,478	17,142	10,283	14,472	17,136	10,283	6	6	—	—
34 機 械 製 造 業	15,336	17,519	8,950	15,325	17,510	8,935	11	9	15	500
35 電 気 機 器 具 製 造 業	18,547	20,887	10,157	18,547	20,887	10,157	—	—	—	521
19.38.39 そ の 他	20,937	24,922	14,812	20,937	24,922	14,812	—	—	—	478
G 卸 売 及 び 小 売 業	15,427	19,896	9,358	15,427	19,896	9,358	—	—	—	358
H 金 融 及 び 保 險 業	20,364	25,557	12,993	20,364	25,557	12,993	—	—	—	405
I 不 動 産 業	17,635	21,512	8,878	17,635	21,512	8,878	—	—	—	—
J 運 輸 通 信 業	23,748	26,403	15,431	23,658	26,304	15,369	90	99	62	385
K 電 気 ガ ス 水 道 業	28,328	28,794	15,656	28,328	28,794	15,656	—	—	—	—
L 医 療 保 健 業	21,924	32,307	15,349	21,924	32,307	15,349	—	—	—	336
<b>生 産 勞 働 者</b>										
D 鉱 業	20,925	21,827	7,124	20,925	21,827	7,124	—	—	—	—
E 建 設 業	16,648	18,337	7,894	16,483	18,281	7,163	165	56	731	—
F 製 造 業	15,259	17,348	9,246	15,241	17,328	9,234	18	20	12	—
18 食 料 品	15,126	18,205	8,567	15,126	18,205	8,567	—	—	—	—
20 織 維 工 業	9,778	17,551	8,689	9,778	17,551	8,689	—	—	—	—
26 化 学 工 業	13,267	17,465	7,916	13,267	17,465	7,916	—	—	—	—
30 窯 業 土 石 製 品	20,510	22,542	9,507	20,434	22,466	9,507	76	76	—	—
32 非 鉄 金 属	15,819	16,792	7,841	15,819	16,792	7,841	—	—	—	—
33 金 属 製 品 業	12,707	15,366	8,421	12,707	15,360	8,421	—	—	—	—
34 機 械 製 造 業	13,231	14,822	8,267	13,223	14,818	8,252	8	4	15	—
35 電 気 機 器 具 製 造 業	15,450	17,250	9,552	15,450	17,250	9,552	—	—	—	—
19.38.39 そ の 他	16,509	18,297	14,377	16,509	18,297	14,377	—	—	—	—
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者</b>										
D 鉱 業	22,638	25,955	9,950	22,638	25,955	9,950	—	—	—	—
E 建 設 業	21,275	23,260	11,403	21,275	23,260	11,403	—	—	—	—
F 製 造 業	25,236	28,602	12,143	25,201	28,562	12,127	35	40	16	—
18 食 料 品	20,721	23,397	12,970	20,516	23,129	12,908	205	268	62	—
20 織 維 工 業	21,377	29,341	11,700	21,377	29,341	11,700	—	—	—	—
26 化 学 工 業	25,064	29,489	12,146	25,064	29,489	12,146	—	—	—	—
30 窯 業 土 石 製 品	25,240	28,163	13,019	25,240	28,163	13,019	—	—	—	—
32 非 鉄 金 属	24,121	27,281	12,036	24,121	27,281	12,036	—	—	—	—
33 金 属 製 品 業	25,513	29,009	20,738	25,468	28,964	20,738	45	45	—	—
34 機 械 製 造 業	22,921	27,988	10,944	22,900	27,967	10,944	21	21	—	—
35 電 気 機 器 具 製 造 業	25,917	28,981	12,020	25,917	28,981	12,020	—	—	—	—
19.38.39 そ の 他	32,190	43,052	17,046	32,190	43,052	17,046	—	—	—	—

第2表 産業常用労働者の種類別及び性別1日平均月間実労働時間数及び出勤日数  
(規模30人以上) (単位時間、日)

産 業 名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出 勤 日 数		
	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子
<b>全 常 用 勞 働 者</b>												
總 数	205.8	211.6	187.5	179.6	180.5	176.9	26.2	31.1	10.6	24.0	24.2	23.2
D 鉱 業	186.6	188.2	169.2	161.3	161.5	159.2	25.3	26.7	10.0	22.2	22.2	22.2
E 建 設 業	183.7	187.5	163.8	170.1	172.7	156.4	13.6	14.8	7.4	22.1	22.4	20.5
F 製 造 業	213.8	223.2	184.6	183.3	186.1	174.5	30.5	37.1	10.1	24.6	25.0	23.3
18 食 料 品	193.3	200.2	177.4	173.6	175.0	170.4	19.7	25.2	7.0	23.0	23.4	22.1
20 織 維 工 業	189.4	211.3	184.1	184.2	195.5	181.5	5.2	15.8	2.6	23.1	24.5	22.6
26 化 学 工 業	192.7	194.4	190.2	178.2	173.5	185.7	14.5	20.9	4.5	23.1	23.2	22.8
30 窯 業 土 石 製 品	212.6	215.9	195.8	189.1	189.5	187.1	23.5	26.4	8.7	24.6	24.6	24.3
32 非 鉄 金 属	213.0	220.3	178.0	166.8	167.4	163.8	46.2	52.9	14.2	22.9	23.4	21.5
33 金 属 製 品	194.3	197.3	189.4	179.8	179.2	180.7	14.5	18.1	8.7	22.7	22.5	22.9
34 機 械 製 造 業	211.9	219.4	190.0	186.1	187.7	181.2	25.8	31.7	8.8	24.1	24.3	23.4
35 電 氣 機 器 具 製 造 業	221.3	229.0	193.9	188.2	189.9	182.1	33.1	39.1	11.8	25.1	25.4	23.9
19, 38, 39 そ の 他	172.7	188.1	148.9	158.9	167.2	146.1	13.8	20.9	2.8	20.8	21.6	19.4
G 卸 売 及 び 小 売 業	205.5	206.4	204.2	193.0	190.7	196.0	12.5	15.7	8.2	24.6	24.4	24.9
H 金 融 及 び 保 險 業	176.7	176.2	177.3	170.1	168.8	171.9	6.6	7.4	5.4	24.3	24.4	24.3
I 不 動 産 業	215.5	226.0	192.0	188.9	190.7	185.1	26.6	35.3	6.9	25.2	25.4	24.7
J 運 輸 通 信 業	187.3	189.9	178.9	166.8	169.4	158.5	20.5	20.5	20.4	22.3	22.4	21.7
K 電 気 ガ ス 水 道 業	160.4	160.3	162.6	149.2	148.9	156.3	11.2	11.4	6.3	22.5	22.5	22.2
L 医 療 保 健 業	202.8	206.0	200.8	186.9	187.8	186.3	15.9	18.2	14.5	24.5	24.7	24.4
<b>生 産 勞 働 者</b>												
D 鉱 業	184.9	186.7	164.9	159.0	159.3	154.4	25.9	26.9	10.5	21.8	21.8	21.1
E 建 設 業	180.0	184.7	155.6	165.6	169.0	147.7	14.4	15.7	7.9	21.3	21.7	19.4
F 製 造 業	214.0	223.2	187.3	183.3	185.1	177.9	30.7	38.1	9.4	24.4	24.8	23.1
18 食 料 品	193.8	203.0	174.3	170.6	172.2	167.2	23.2	30.8	7.1	22.7	23.2	21.6
20 織 維 工 業	186.5	216.1	183.1	182.2	197.4	180.8	4.3	18.7	2.3	22.8	24.7	22.6
26 化 学 工 業	192.5	192.9	191.9	177.4	169.4	187.5	15.1	23.5	4.4	22.7	22.8	22.6
30 窯 業 土 石 製 品	213.1	216.5	195.1	188.4	188.9	185.8	24.7	27.6	9.3	24.4	24.4	24.1
32 非 鉄 金 属	224.0	230.1	186.9	166.0	165.2	171.1	58.2	64.9	15.8	22.6	22.5	22.8
33 金 属 製 品	193.6	195.5	190.5	180.0	178.7	182.0	13.6	16.8	8.4	22.6	22.3	23.0
34 機 械 製 造 業	210.5	218.0	187.2	184.5	186.3	178.9	26.0	31.7	8.3	23.9	24.1	23.1
35 電 氣 機 器 具 製 造 業	220.0	229.1	190.4	186.8	189.2	179.2	33.2	39.9	11.2	24.8	25.2	23.5
19, 38, 39 そ の 他	168.9	183.7	151.5	158.1	164.9	150.4	10.8	18.8	1.1	20.6	21.3	19.8
<b>管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者</b>												
D 鉱 業	195.6	200.7	176.0	173.6	175.4	166.8	22.0	25.3	9.2	24.7	24.9	23.9
E 建 設 業	194.0	195.6	185.9	182.6	183.2	179.8	11.4	12.4	6.1	24.2	24.4	23.7
F 製 造 業	213.6	223.3	175.8	183.3	188.4	163.6	30.3	34.9	12.2	25.0	25.3	24.0
18 食 料 品	191.6	192.4	189.4	182.6	182.7	182.5	9.0	9.7	6.9	23.9	23.9	23.7
20 織 維 工 業	205.0	214.1	194.1	195.3	201.3	188.1	9.7	12.8	6.0	24.7	25.2	24.6
26 化 学 工 業	193.8	197.1	182.6	180.7	181.2	177.7	13.1	15.9	4.9	24.0	24.1	23.7
30 窯 業 土 石 製 品	210.5	213.6	197.8	192.1	192.3	191.3	18.4	21.3	6.5	25.3	25.3	25.1
32 非 鉄 金 属	201.2	209.0	171.4	167.6	170.0	158.4	33.6	39.0	13.0	23.2	23.9	20.5
33 金 属 製 品	198.3	209.8	182.8	178.5	182.9	172.6	19.8	26.9	10.2	23.1	23.9	21.9
34 機 械 製 造 業	217.0	225.1	198.1	191.8	193.5	187.9	25.2	31.6	10.2	24.9	25.1	24.4
35 電 氣 機 器 具 製 造 業	224.5	228.8	204.7	191.5	191.5	191.1	33.0	37.3	13.6	25.6	25.7	25.2
19, 38, 39 そ の 他	182.1	226.3	140.5	160.9	191.7	129.9	21.2	28.6	10.6	21.2	25.8	17.8

第3表 産業常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の年月推計延人員（規模30人以上）（単位人）

前月末労働者数			本月中の増加			本月中の減少			本月末労働者数			臨時及び日雇労働者の 月間推計延 人員
総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
138,697	105,410	33,287	2,692	1,954	738	4,536	3,219	1,317	136,853	104,145	32,708	60,973
10,968	10,066	902	249	186	63	235	218	17	10,982	10,034	948	8,113
6,839	5,703	1,136	311	289	22	841	693	148	6,309	5,299	1,010	28,062
91,366	69,103	22,263	1,791	1,307	484	2,525	1,664	861	90,632	68,746	21,886	6,203
3,441	2,395	1,046	73	28	45	122	59	63	3,392	2,364	1,028	—
1,422	276	1,146	17	5	12	31	1	30	1,408	280	1,128	1,291
1,875	1,134	741	18	16	2	147	71	76	1,746	1,079	667	185
3,939	3,282	657	175	160	15	50	34	16	4,064	3,408	656	279
6,939	5,706	1,233	80	73	7	213	111	102	6,806	5,668	1,138	1,637
1,593	976	617	50	20	30	54	27	27	1,589	969	620	—
5,192	3,860	1,332	82	73	9	181	129	52	5,093	3,804	1,289	11
52,018	40,675	11,343	947	707	240	1,273	966	307	51,692	40,416	11,276	363
1,822	1,101	721	26	16	10	80	43	37	1,768	1,074	694	23
8,174	4,718	3,456	99	28	71	243	132	111	8,030	4,614	3,416	8,795
4,276	2,510	1,766	59	21	38	94	44	50	4,241	2,487	1,754	484
335	231	104	2	1	1	4	—	4	333	232	101	—
14,934	11,338	3,596	174	115	59	585	459	126	14,523	10,994	3,529	9,316
1,805	1,741	64	7	7	—	9	9	—	1,803	1,739	64	—
2,984	1,150	1,834	23	11	12	43	5	38	2,964	1,156	1,808	1,149
9,234	8,692	542	240	181	59	221	211	10	9,253	8,662	591	—
5,119	4,272	847	292	277	15	822	683	139	4,589	3,866	723	—
65,161	48,271	16,890	1,531	1,134	397	1,903	1,233	670	64,789	48,172	16,617	—
2,578	1,758	820	65	22	43	93	48	45	2,550	1,732	818	—
1,200	154	1,046	17	5	12	30	—	30	1,187	159	1,028	—
1,354	748	606	14	13	1	113	47	66	1,255	714	541	—
3,140	2,637	503	166	154	12	49	34	15	3,257	2,757	500	—
3,534	3,030	504	65	64	1	29	15	14	3,570	3,079	491	—
1,373	851	522	44	17	27	48	27	21	1,369	841	528	—
4,079	3,078	1,001	69	66	3	176	127	49	3,972	3,017	955	—
36,600	28,025	8,575	808	610	198	980	708	272	36,428	27,927	8,501	—
1,304	718	586	23	13	10	55	30	25	1,272	701	571	—
1,734	1,374	360	9	5	4	14	7	7	1,729	1,372	357	—
1,720	1,431	289	19	12	7	19	10	9	1,720	1,433	287	—
26,205	20,832	5,373	260	173	87	622	431	191	25,843	20,574	5,269	—
863	637	226	8	6	2	29	11	18	842	632	210	—
222	122	100	—	—	—	1	1	—	221	121	100	—
521	386	135	4	3	1	34	24	10	491	365	126	—
799	645	154	9	6	3	1	—	1	807	651	156	—
3,405	2,676	729	15	9	6	184	96	88	3,236	2,589	647	—
220	125	95	6	3	3	6	—	6	220	218	92	—
1,113	782	331	13	7	6	5	2	3	1,121	787	334	—
15,418	12,650	2,768	139	97	42	293	258	35	15,264	12,489	2,775	—
518	383	135	3	3	—	25	13	12	496	373	123	—

# 資 計 統

## 〈不 定 期 刊 行 物〉

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
土地・人口			栃木県民所得推計報告書	35年	栃木県
わが国の人口集中地区	36年	総理府統計局	経 済 情 報	1962年	東京
第14回簡速静止人口表	35.4.1~ 36.3.31	厚生省人口問題研究所	就業構造基本調査報告	36年	福島
(生命表)			農産物商品化程度別農家統計報告	1960年	三重
明治初年以降大正9年に至る男女年令別人口推計	37年2月	〃	〃	〃	東京
人口増加と経済発展との関係に関する研究—最近のA.Sauvy教授の研究を中心として	37年2月	〃	教育じほう	37年	〃
住民登録人口移動報告季報7.8.9	36年	総理府統計局	石川県勢一覽	36年	石川
住民登録人口移動報告年報	35年	〃	道民所得調査報告	35年	北海
農林・水産			年次別	27~35年	〃
農林水産統計	1962年	農林省統計調査部	栃木県統計年鑑	36年	栃木
臨時漁業センサス	36年	〃	ポケット統計表	37年	東京
漁家世帯員統計	36年	〃	福岡県鉱工業生産指数	36年	福岡
漁業経済調査報告	35年	〃	北海道統計書	35年	北海
茨城県養蚕年報	〃	農林省茨城統計調査事務所	本県の経済構造	37年	宮城
主要冬作物生産統計	36年	〃	宮城県統計総覽	35年	〃
茨城水産統計速報	〃	〃	グラフしずおか	37年	静岡
農業集落調査分布図	1960年	農林省農林経済局	鹿児島県民所得推計結果	35年	鹿児島
漁業経済調査報告	35年度	〃	毎勤地方調査結果	36年	新潟
家畜飼養の概要	〃	〃	保健所活動の概況	34年	茨城
商工			1960年センサス特集	35年	鳥取
最近におけるわが国の商業	1962	通商産業大臣官房	山形県勢要覽	1962年	山形
経 済			都民所得推計結果	35年	東京
国民所得白書	35年	経済企画庁	東京都個人経済力調査報告	37年	〃
法人企業投資予測統計調査	37年	〃	家計調査結果速報	36年	香川
教育			大阪市統計書	〃	大阪
社会教育調査報告書	35年	文 部 省	県民所得推計結果	35年	新潟
児童生徒体位個人調査報告書	35年度	〃	兵庫県統計書	34年	兵庫
その他			個人商工業経済調査年報	35年度	滋賀
繊維統計調査対象名簿	36年	通商産業大臣官房	学校保健統計調査報告	36年度	大阪
事業所統計調査報	35年	総理府統計局	新規就業調査結果	〃	三重
東京郵政統計年報	〃	東京郵政局	鉄道運輸統計	35年度	〃
増加図書年報	1961	総理府統計局	三重県統計書	34年度	〃
建築統計年報	35年	建設省計画局	農産物商品化程度別結果	1960年	大阪
都道府県			その他		
学校基本調査報告	36年度	北海道	賃金統計のしおり	37年	東京商工会議所
静岡県勢要覽	35年	静岡県			
工業統計調査結果報告書	〃	〃			
静岡県鉱工業生産指数	30~35年	〃			
統計 図 鑑	36年	〃			



# 料 案 内

＜定 期 刊 行 物＞

資 料 名	月号	発 行 者	資 料 名	月号	発 行 者
日本統計月報	2, 3	総理府統計局	経済統計月報	2	日本銀行統計局
消費者物価指数	2	〃	コンクリートブロック	2	日本コンクリートブロック協会
家計調査報告	10	〃	農業総合研究	1	農林省農業総合研究所
労働力調査報告	2	〃	科学技術庁月報	4	科学技術庁
内外統計季報	3	〃	北海道統計	1.2.3	北海道統計協会
人口推計月報	1	〃	統計いわて	3, 4	岩手県統計協会
小売物価統計調査報告	1	〃	みやぎ統計	3, 4	宮城県統計協会
指定統計調整報告	1.2.3	行政管理庁統計基準局	統計秋田	3	秋田県文書統計課
届出統計月報	1	〃	統計春秋	2	福島県統計協会
統計情報	1	〃	統計ぐんま	3, 4	群馬県統計協会
通産統計月報	4	通産大臣官房調査統計部	統計月報	3	埼玉県統計協会
百貨店販売統計月報	2	〃	統計東京	3	東京都総務局統計部
出荷, 在庫統計速報	3, 4	〃	東京小売物価動向	2, 3	東京商工会議所
生産統計速報	3	〃	東京卸売物価動向	1	〃
商工統計研究	2	〃	東京都標準世帯家計調査報告	1	東京都総務局統計部
繊維統計速報	2, 3	〃	神奈川の統計	3, 4	神奈川県統計協会
紙, パルプ統計速報	2, 3	〃	交 流	3	山 梨 県
日用品, 皮革統計月報	1	〃	静岡県の統計	2, 3	静岡県統計課
ゴム統計月報	1	〃	統計にいがた	3	新潟県統計課
窯業建材統計月報	1	〃	会 議 所 月 報	2	大阪商工会議所
機械統計月報	1	〃	大阪の統計	2	大阪府統計課
繊維統計月報	1	〃	兵庫県の統計	2, 3	兵庫県統計協会
商業動態統計速報	1	〃	島根の統計	3	島根県統計協会
主要経済指標	4	〃	ともしび	3	岡山県統計協会
通産旬報	2, 3	通産大臣官房広報課	統計の泉	2	広島県統計協会
労働統計調査月報	3	労働大臣官房労働統計調査部	香川統計だより	3	香川県統計課
労働経済指標	2	〃	えひめの統計	3	愛媛県統計協会
賃金, 労働時間および雇用の動き	1	〃	統計福岡	3	福岡県統計課
教育統計	2	文部省調査局	統計佐賀	2	佐賀県統計課
農林水産統計月報	1	農林省農林経済局	統計月報	2	長崎県総務部統計課
世界の動き	4	外務省情報文化局	統計鹿児島	3	鹿児島県統計協会
都道府県展望	2, 3, 4	全国知事会	農業茨城	4, 5	茨城県農業技術研究会
広報研究	4	全国広報研究会	茨城県主要経済指標	2	日本銀行水戸事務所
農林金融	4	農林中央金庫調査部	生乳, 乳製品の生産消費に関する統計速報	2	農林省茨城統計調査事務所
漁村経済	2	全国漁業協同組合連合会			

## 所得倍増計画のはなし

昭和37年度の本欄をかりて、35年県民所得を話題の前提としてお話しするわけではありますが、その前に、35年度は所得倍増計画という経済計画が作られた年でもありますし、倍増計画の再検討とか、修正とかの声も聞かれる今日の経済界の動向の最大の要因に設備投資があげられます。そういったことを頭において所得倍増計画ということについて触れてみましょう。

戦後、荒廃した国土を復興するために考えられた復興計画から、この倍増計画にいたるまで多くの経済計画が作られてきたわけではありますが、いずれの経済計画においてもそのときの経済情勢なり、社会的条件や要請にしたがって作られてきたわけでもあります。したがって、それぞれの計画の作成態度といったものはいずれも違うわけです。しかし、どの計画にしても、計画を作る場合に基本的な共通した考え方があるわけです。

すなわち、経済成長の可能性と、その構造の変化をみきわめることです。つまり、いままでに、経済が発展してきた内容を分析して、それが将来にどのように展開されていくかを予測することです。

そして、次の問題として、予測されたものが種々の望ましくない要素を含んでいたり、問題の生ずる可能性があるとき、その原因がなんであるかをみつけ出すことであります。

こういった基本的な考え方をどのようにとらえるかということで、今までの経済計画もそれ自体おのおの特色を持った方法を使用してきたわけです。

この所得倍増計画というのは、ほぼ10年間のうちに経済規模を倍にするということが目標になっておりますが第1に、そのような経済成長が可能であるかどうかということ、第2に、倍増達成およびそれ以後の成長に特別の支障をきたさないようにするためには、政策的にどのような経済発展の方向をとればよいかということの二つの問題が最初に検討されなければなりません。

ここで、経済成長が可能であるかどうかということ、つまり、経済成長力を検討するのには、いままでの経済の成長というものが、どのような要因によつてもたらせ

られたかということを明らかにすることが必要であります。

戦後わが国の経済を概観するとき、一般に昭和30年ごろまでを経済の復興過程としておりますが、それ以後一応復興段階が終つてもなお高度の成長を維持出来たことの大きな原因として、消費革命と技術革新があげられます。これらはいずれも消費なり、投資なりの需要要因から成長の根拠を説明しようとするものですが、このような需要に対して供給面では供給能力としての資本、労働の生産要素の動向に大きな影響があるわけですが、わが国においては労働力が豊富であり、そのためにこの面からの成長に対する制約はあまり考えられなかつたわけです。このような需要と供給とは別に国際収支の間頭があるわけですが、この三つの側面をどのように計量化してとらえるかが計画作成の第1歩でもあるわけです。

一般に、消費革命といわれるとき、それは、消費支出の増加率と消費支出項目の変化傾向という指標でとらえられます。また、技術革新という場合にも、その投資需要の増加速度と投資される業種、設備の種類、生産性の上昇などの指標でとらえられます。また投資については需要効果と供給効果の二面がありますので、前者は投資乗数、後者は投資の産出力係数と関係させて考えなければなりません。このことを1例をあげて説明しますと、いまかりに一定の投資が行なわれたとしましょう、そうすると、その投資に応じて生産活動の膨張が行なわれ、一方で、生産能力が増大し、他方で投資額の何倍かの需要が生れてまいります。このような生産能力の増大は1単位当たり資本の生産能力の係数を媒介に算出されますが、その係数を産出力係数といいます。また、投資額以上の需要が起こるということは、投資にともなつて雇用の増加が起こり、賃金支払をとおして消費の増大をもたらすなどの需要の波及効果によるものでありますから、この度合いを示すものを投資乗数といいます。

この両者の数値が大きくなつたり、あるいは、小さくなつたりすることによつて、経済成長の度合いがみちびかれるわけです。つまり、投資乗数が小さく、産出力係

数が大きいような場合、需要を高めるために投資をより大きく行なうということは、ますます供給過剰の需要不足という状態をまねく結果になるわけです。このようにして、一応ある経済規模がきまると次の時期の投資は達成された経済規模に応じてきまるわけです。これを一般に加速度原理といっております。このようにして、再び投資が新しく行なわれ、前述の産出力係数、投資乗数をとおして経済の発展が行なわれるわけです。

こうしたみちすじにしたがって、わが国の経済をみてみますと、消費の伸びが投資の増加より遅れていること次に産出力係数が徐々に下つてきていることがいままでのデータによつてわかりました。このような傾向は、成長を高めるには投資をより大きく増大させて需要を高め、他方産出力係数の低下をカバーするためにも、投資の増大が必要なることを示しております。しかしながら投資の増大ということによつて第1に問題となるのは供給過剰の危険ということです。それを除くためには投資乗数を高めること、すなわち、消費の増加率を投資の増加に近づけること、産出力係数の低下をくいとめること、そのためには相対的に不足してきている社会的資本を満たして、技術革新の進行をスムーズに行なわせることが必要になります。このような考え方を背景として、現在のままの傾向がとられるとした場合と、消費の増加

率を高め、産出力係数の低下をおさえた場合などについてのおおの可能な成長率を検討し、その結果6.5%から8%の年平均成長率で10年を推移することが可能であるということでありました。

このようにして、成長力の検討が終わると、その経済成長に対応した政策課題、または制約条件といったものが持ちよられ検討されるわけですが、与えられた経済規模に応じた最適な投資需要を算出し、その投資が次には各産業に配分されて生産所得を生み出し、さらに生産所得から勤労所得、法人所得などの分配所得が算出されるわけです。分配所得がきまりますと、個人所得がきまり個人税率をきめることによつて、個人可処分所得を出しさらに個人貯蓄額を出します。

このように所得倍増計画の試算表のモデルは、支出、生産、分配という経済の三面から経済のしくみをとらえる三面等価の原則を利用して、経済の各部分の因果関係を説明し、それをもとに経済計画の目標や、政策の方向を示そうとしたのです。

しかしそのことは、結局所得分析の範囲を出るものではなく、物価、金融連関、産業連関による広い分野の分析を残しているということができましよう。

(県統計課経済統計係長 横須賀 弘)

## 設備投資の動向 (昭和37年度上期)

昭和37年度上期に実施される予定の設備投資計画額は1兆2,325億円である。これは、36年度下期の設備投資実績見込額1兆2,178億円にくらべて147億円、1.2%の増加であり、設備投資が急増を示した。34年度下期以降の各期の設備投資の対前期増加率がいずれも10%を越えていたのにくらべると、37年度上期においては、設備投資はほぼ鎮静化し、横ばいとなることを示している。もつともまた、前年同期の設備投資実績額1兆0768億円、14.5%の増加であり、その水準はなお高いものがある。

また、36年度下期の設備投資実績見込額1兆2,78億円は、36年度上期の設備投資実績額1兆0768億円にくらべて1,410億円、13.1%の増加である。しかし、これは前回調査(36年8月調査)で予測された対前期増加率19.1%をかなり下回っている。

なお、36年度上期の実績額と下期の実績見込額を合算した36年度の実績見込額は2兆2,947億円となり、35年度

の実績額1兆7,876億円にくらべて5,071億円28.4%の増加である。

今回の調査結果の特徴は、前述のとおり、37年度上期の設備投資計画額がほぼ前期程度の水準のまま横這い傾向を示していることと、36年度下期の設備投資実績見込額が前回調査で予測された程には伸びなかつたことにあるが、これらはいずれも、36年度半以降にとられた金融引締め、設備投資計画の調整などの効果を反映しているものと思われる。

なお、37年度上期の設備投資計画額と同時に、37年度全年度間の設備投資計画額についても回答をよせた1,171社についてみると、37年度の設備投資計画額は2兆0869億円で、36年度の設備投資実績見込額1兆8,483億円にくらべて2,386億円12.9%の増加を示している。

(経済企画庁法人企業投資予測調査速報から)

# 減っている農業就業人口

昭和35年の県民所得推計結果による本県の産業別生産所得額は第1次産業645億円、第2次産業566億円、第3次産業337億円となっており、生産所得総額2,049億円に占める割合は、それぞれ31.5%、27.6%、40.9%であります。

これを昭和35年国勢調査による産業別就業人口と対比してみると、第1次産業では就業人口で56.2%を占めているのに所得は31.5%、1人当りにして112千円であり、これに対し、第2次産業では就業人口で16.8%、所得は27.6%を、1人当りにして327千円、第3次産業では就業人口で27.0%、所得は40.9%を、1人当りにして301千円であり、いかに第1次産業(農林水産業)における所得が他産業に比較して低いかがうかがわれ、とくに1人当り所得で第1次産業のそれに対し、第2・3次産業では2.9倍、2.7倍となっていることからしても明らかであります。

このように生産性の低い農林水産業従事労働者を所得水準の高い他産業に移動させるべく、国及び地方公共団体においても各種の施策が計画され、あるいは実施されているようであります。

本県の総合開発振興計画によれば、次の第1次産業就

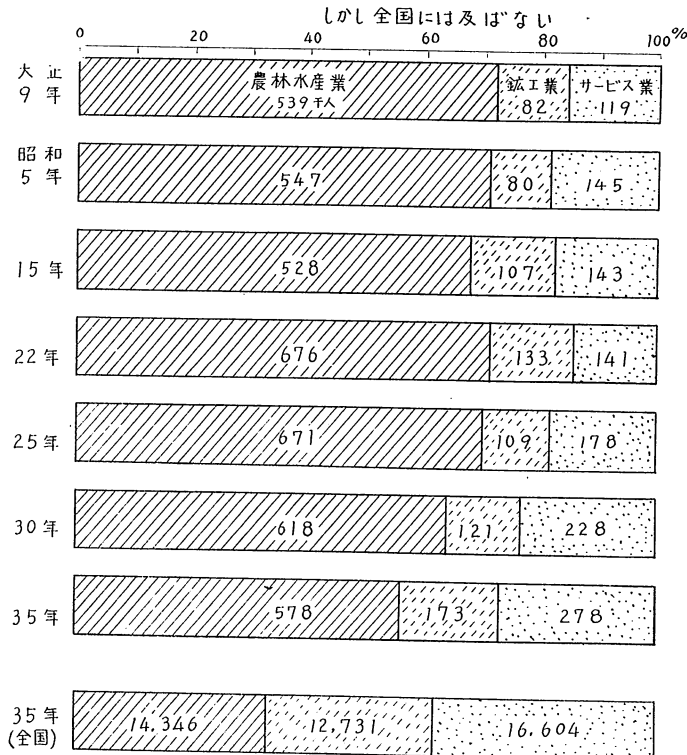
業人口は計画の目年標次(昭和45年度)まで年率3.3%ずつ減り、第2次産業の就業人口は年率7.9%ずつ、第3次産業のそれは5.4%ずつそれぞれ増えるであろうと予測しております。

ここで、国勢調査による産業別就業人口の変化をグラフに画いてみると、たしかにわずかではありますが、傾向として第1次産業就業人口は減っているようであります。ここで注目されるのは昭和22年に第1次産業の就業人口が他を引離して、676千人の70.9%を占めていることでもあります。

このことから終戦直後の困乱期が思い出されます。人々は職を失ない、第1に困つたものは食べ物のことであり、ために多くの人が街から引きあげて、なれない手つきで農仕事をしつて糧を得た時代であります。

その後世の中も落付をとりもどし、グラフにみるように第2次、第3次の就業人口が暫増し、昭和35年の産業別就業人口の割合は、第1次産業56.2%、第2次産業16.8%、第3次産業27.0%となりましたが、同年の全国の第1次産業就業人口14百万人32.8%にはまだまだ及ばないようであります。(生井)

減っている農業就業人口



# 鉄 道 輸 送

私達の生活に直結する食料品から、工業の原材料である鉄鉱などすべての物は、空輸、海運あるいは自動車、鉄道の陸運のいずれかの運搬手段によつて運ばれております。しかしどんな品物がどのような手段で運ばれているかという面の統計というと、かならずして完備されているとはいえませんが、最近国鉄事務管理統計部から、昭和35年度の主要貨物発着府県別トン数年報が発刊されましたので、本県関係部分を掲載いたします。

(単位トン)

品 目				発	着	発	超	着	超
石			炭	2,021,167	422,020	1,599,147	—		—
石	及	び	石	42,466	6,725	35,741	—		—
砂	利	及	び	157,052	20,490	136,562	—		—
鉄			化	81,862	18,479	63,383	—		—
硫				150,377	100,057	50,320	—		—
銑			鉄	148	16,878	—	16,730		—
普	通	鋼	鋼	3,962	120,702	—	116,740		—
原			材	2,269	31,220	—	28,951		—
バ	ル	ブ	材	36,308	101,520	—	65,212		—
杭			木	1,466	46,613	—	45,147		—
薪			炭	7,792	6,181	1,611	—		—
木				2,037	1,580	457	—		—
米				112,006	15,299	96,707	—		—
麦				117,940	55,328	62,612	—		—
大			豆	175	10,631	—	10,456		—
甘		し	よ	75,422	1,179	74,243	—		—
馬	鈴	し	よ	70	6,359	—	6,289		—
野			菜	20,667	3,987	16,680	—		—
り		ん	ご	37	10,799	—	10,742		—
み		か	ん	—	3,407	—	3,407		—
そ	の	他	の	6,325	1,256	5,059	—		—
葉	た	の	ば	24,556	5,758	18,798	—		—
餉			果	35,606	39,583	—	3,977		—
鮮	魚	及	冷	15,693	11,452	4,241	—		—
塩		び	凍	14,383	913	13,470	—		—
		乾	魚						
塩			物	1,333	19,338	—	18,005		—
硫	酸	ア	ニ	25,843	39,285	13,442	—		—
過	り	ん	石	5,989	48,308	—	42,319		—
石		灰	窒	25	7,255	—	7,230		—
そ	の	他	化	44,864	198,831	—	153,967		—
			学						
			肥						
硫			酸	136,725	4,463	132,262	—		—
鉍			油	4,403	168,972	—	164,569		—
陶		磁	器	1,683	5,599	—	3,916		—
セ	メ		ト	383,394	165,830	217,564	—		—
機			械	55,247	19,186	36,061	—		—
小		麦	粉	40,874	6,410	34,464	—		—
た		ば	こ	2,786	3,586	—	800		—
酒			ル	3,704	4,132	—	428		—
ビ		—	そ	1,220	1,175	45	—		—
み				104	661	—	557		—
し	よ	う	油	170	593	—	423		—
綿			花	40	—	40	—		—
バ	ル		フ	33,324	40	33,284	—		—
紙			品	6,816	3,391	3,425	—		—
わ	ら	工		4,307	1,453	2,854	—		—

# 市 町 村 の 横 顔

## 日 立 市



(高 嶋 市 長)

海岸線に沿った平地地帯に平行して、市内の大甕、日立多賀、日立、小木津の各駅を通る常磐線と、これにそつて6号国道が縦貫しこの2条の幹線にそつて工場地帯が発展している。

その地帯から西部に向い山麓らしい丘陵地帯となつて最近ではこのあたりにどンドン近代的なアパートが建設されており、潮風を受け暖かい太陽をいっぱい浴びているところはまつたく理想的団地である。この背後には金銀などを包蔵する山々と、シーズンにはハイカー達でにぎわう高鈴山、神峰山に続く。

明治22年市町村制施行によつて高鈴村、日立村が発足した。明治38年久原久之助によつて赤沢銅山が日立鉱山となり、次いで日立製作所が誕生して大発展を遂げ、日立村は日立町に、高鈴村は助川町となつて、その後の発展過程で両町は殆んど同一都市の形態が自然につくられ昭和14年9月両町を合併し日立市の成立となつた。

しかし、この北関東唯一の工業都市日立市も、第二次世界大戦の戦火から逃れることは出来ず、廃虚と化した。にもかかわらず、戦後の文化国家建設とあいまつて当然工業都市日立市が脚光を浴び、市民の不屈の精神とたゆまざる努力によつて、総合産業都市への道を邁進して来たのであるが、頃もよし昭和29年に市町村合併法が施行され、昭和30年2月15日、多賀町、中里村、日高村坂本村、東小沢村、久慈町を合併、次いで昭和31年9月20日豊浦町も合併し、理想的な総合産業都市日立市が誕生し、現在では人口17万人を有する県下最大の都市として、4期連続当選の高嶋市長のもとで、更に世界の日立として躍進しようとしている。

### 2 産 業

市の代表的な産業は工鉱業というほかないであろう。明治42年に小平良平によつて創立された日立製作所、毎年多量の金銀を産出している日本鉱業所日立鉱山、それに日立セメント、またこれらの下請工場などを合せて、昭和35年工業調査の結果によれば、工場数499、従業者数

### 1 概況

総延長23 kmにも及ぶ日立海岸は日立市の地勢上最も目立ものである。この長い海岸線上には河原子などの海水浴場や、工業の発展に密接な関係をもつ日立港がある。

48,852人、年間製造品出荷額は、1,210億円で本県の製造品出荷額1,904億円の63%を占めている。

製造品の主なものは発電機からテレビ、冷蔵庫など電気機械器具製品であり、日立鉱山では昭和35年には金鉱146t、銀鉱2,339t、銅鉱5,424tなどが産出された。

農業は経営規模の零細化をたどつているが、日立市においては他に較べるものがないほどの消費人口があり、最近一部では野菜などを主に近郊農業としての合理的な農業経営が行なわれつつある。

人口の加速度的な増加によつて当然起つてくる問題として住宅の問題がある、市営住宅の入居の際には競争率7倍という難門を通らなければならない現状であり、日立市建設実施計画によれば、37年～39年までに、市、県公団住宅など合せて1,800戸あまりの建設を計画し、住宅難の解消に意を用いている。

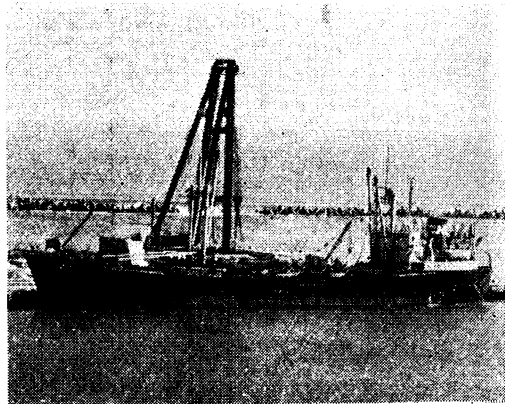
市では毎年独自の家計調査を実施しているが、この結果によれば、1世帯当り1カ月間の平均支出額は、昭和30年の20千円から年々増加し、35年には36千円と市民のふところ具合も大変よくなつており、市の予算も昭和37年度は17億円の大型予算で、そのうち市税が13億円を占めているのもいかに日立市らしい。

### 3 教育文化

小学校23校、中学校12校があり児童生徒も3万人に及んでいる。高等学校は日立第一、日立第二、日立工業、多賀の各公立高校と、私立の日立女子高校、茨城キリスト教学園が、更に茨城大学工業短期大学部、茨城キリスト教短期大学が置かれ、次代を背負う若者達が恵まれた環境の中で教育を受けている。

公民館活動も盛んで8つの公民館で17名の専任職員が社会教育活動の推進にあたり、市民の教養を高めるとともにリクリエーション活動を通じ人の和を図つている。また日製、日鉱など事業所における文化活動も盛んに行なわれており市民に寄与しているところも大きいのではないが、日製多賀工場合唱団、日鉱のプラスバンドは全国コンクールにおいても優秀な成績をおさめ、その名を全国にとどろかしている。

最後に今後更に大工業都市として発展されるよう祈つてやまない。



(日 立 港)

## 作家のとらえた人間

茨城大学教授 塚本勝義

「人生は一箱のマツチに似ている。重大に扱うのは馬鹿々々しい。重大に扱わなければ危険である。」と芥川竜之介はつぶやいた。

考えてみれば人間の営みなんて、からきしちつぽけな事ばかりだ。大統領という人間の仕事だつてサインするくらいが関の山かも知れぬ。大骨折つて大統領になり、仕事の馬鹿々々しさに、早くもやめたくなつて大統領だつてあろう。もつとも馬鹿々々しさに気づかぬ馬鹿々々しい大統領もあろうが――

しかし、馬鹿々々しいからといって、いい加減なサインをするなら、地球が死の灰に包まれる。

× × ×

「民衆の愚を発見するのは必ずしも誇るに足ることではない。」これも芥川の独語。民衆の愚を発見して、いい気持になつて人間がいかに多いことか。「が、我々自身もまた民衆であることを発見するのは、ともかくも誇るに足ることである。」と芥川はつづける。

「おれも民衆だ」「わたしも民衆だ」と誰もかれも発見したら、役所のサービスなんて、およそ笑止の沙汰になろう。自己の中に民衆を発見できないばかりに、やさしい言葉に針がかくされ、ていねいなおじぎが滑稽なほど技巧的に見える。

× × ×

「結婚は性欲を調節することには有効である。が、恋愛を調節することには有効でない。」と芥川は述懐する。

芥川は大正7年2月、27才で結婚した。この言葉のある「侏儒の言葉」は、昭和2年に「文芸春秋」に発表した。だから、この結婚観は、約十年にわたる結婚生活体験の結論だつたといえよう。

結婚は、性的には人間を安定させるが、愛情の世界では決して安定させないというのだ。夫も妻も、こと愛に関する限り、相変わらずキヨロキヨロしているというのだ。

芥川のこの結論が真実だとするなら、人間はいくつになつても危険きわまりない生き物だということになる。もつとも、危険きわまりない生き物だから、面白くもあり、魅力もある。みんな安全だつたら、どこからどこまでアグビだらけになつてしまう。

× × ×

「我々を恋愛から救うものは理性よりも、むしろ多忙である。」これも芥川の独語。たしかに多忙では「愛の手紙」もまとまらぬ。相手の顔を見上げるいとまもなく

カレーライスを噛まずに呑みくだし、散歩も駆足だ。とても「あなたの純情」に、ぼうつとして時間なんかない。だから芥川は言葉をついで、「恋愛もまた完全に行われる為には何よりも時間を持たなければならぬ。」と忠告し、例の物知り振りを發揮して、ウエルテルもロミオもトリスタンも、みんな無類の閑人だつたと教える。

現代人はみんな多忙だ。バスの中でも読書しなければならぬ。こんなに多忙な現代人に果して本当の恋愛があるだろうか。くびをかしげたくなる。恋愛だと思つて喜んでることが、実は単なる戯れに過ぎないではないか、とも疑いたくなる。半年1年でポツンポツンと切れてしまうのも本物でない証拠か。

本物の恋なら、ラブレターの文字が下手なくらいで縁の切れるはずもあるまい。

× × ×

「理性のわたしに教えたものは畢竟理性の無力だつた。」と芥川は歎く。

大した問題でなければ理性がよくはたらく。3円ぐらいの釣銭なら誰だつてゆつくり数えられる。事、重大になると、脚がこまかく動き、手が見事にふるえ、おまけに顔色まで急変する。瞬間にして理性人は原始的な感情人に逆戻りしてしまう。結局、理性とは小事を処理するだけに役立つ道具にしか過ぎないのか。

× × ×

「人生は哲学と逆である。怠惰のないところに幸福はなく、無用の物だけが満足をもたらす。」とチエーフはいう。

仕事の合間をねらつて引出しの中にあまり上等でもない週間誌をそつとひろげて読むうれしさよ。

とつても多忙だというのに、土器の破片なんか拾つてきて、すつかり感激してしまう大なる満足よ。落ちついて見当つければ鶏の水のみにもならぬ代物であるのに。

しかしチエーフは人生の全体を直視してモノを言っている。人生全体を確実につかんだ上で発言している。

彼は「仕事よりも宴会で幸福を感じる人間」を知っている。彼は「自己の職業関係の書籍に親しむよりも月界人の恋物語に満足してしまう人間」を知っている。

ムダを省け――という。まことに結構。しかし程度がある。ムダが全然なくなつてしまつたら、おそらく人類は、ちつ息してしまうに相違あるまい。(統)